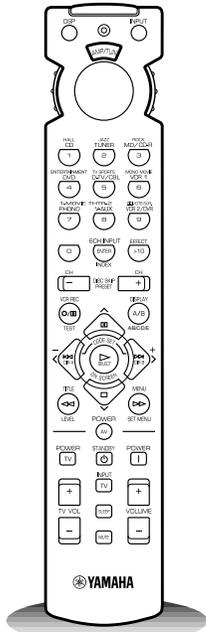
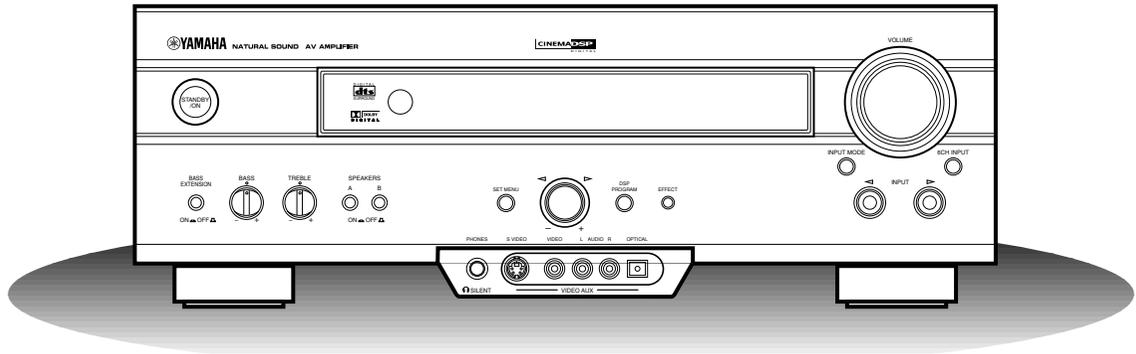


AVアンプ

# DSP-AX620

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER



## 取扱説明書

このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-AX620をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-AX620の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

本機の機能

ご使用前に

基本操作

応用操作

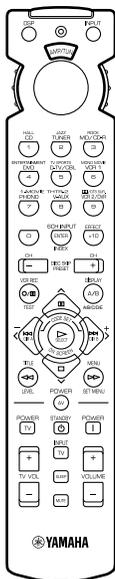
解説

参考

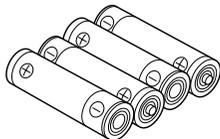
## 付属品

同梱されている付属品を確認してください。

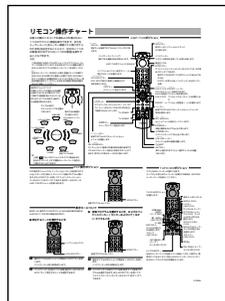
リモコン



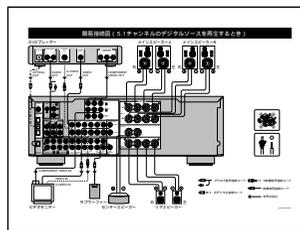
単4乾電池（4本）



リモコン操作チャート



簡易接続図



## 特長

DSP-AX620は臨場感あふれるエンターテイメントをご家庭にお届けするAVアンプです。

ヤマハの最新技術により、あたかも世界の主要な劇場、映画館にいるような音場体験が家庭にいながら体験できます。実測データに基づく音場プログラムから独自の技術を駆使したシネマDSPまで数々の最新プログラムを搭載しています。

また、それらの音場プログラムのパラメーターを変更して、お聴きになるソースやお好みに合わせて音場プログラムをアレンジすることができます。

さらに本機には、リアスピーカーを設置しなくてもDSPの臨場感や迫力をお楽しみいただけるバーチャルシネマDSP、ヘッドホンでDSPがお楽しみいただけるサイレントシアターを装備しております。

本取扱説明書をお読みいただき、DSP-AX620がもたらす新しい音場体験を心ゆくまでお楽しみください。

- 5チャンネルハイパワーアンプ内蔵  
定格出力(20Hz~20kHz、歪率0.06%、6 )  
メインチャンネル(L,R): 90W+90W  
センターチャンネル: 90W  
リアチャンネル(L,R): 90W+90W
- DTS(デジタルシアターシステムズ)対応
- ドルビーデジタル対応
- ドルビープロロジック対応
- Hi-Fi DSP
- シネマDSP
- バーチャルシネマDSP  
(P.26「バーチャルシネマDSP」参照)
- サイレントシアター  
(P.26「サイレントシアター」参照)
- 6CH INPUT端子装備  
(P.11「外部デコーダーの接続」参照)
- いくつかの他メーカーのAV機器が操作可能な多機能リモコン付属

# 安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

## 絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。たとえば ⚠ は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。たとえば ⚡ は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。たとえば ⏏ は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

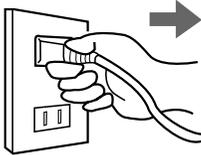


## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



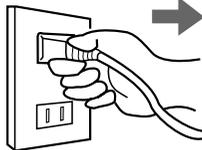
煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



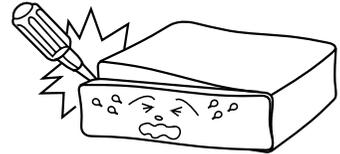
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



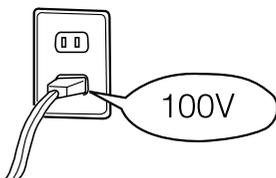
分解・改造を絶対しない  
（キャビネットをはずすことも含む）



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



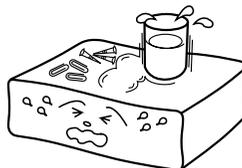
電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



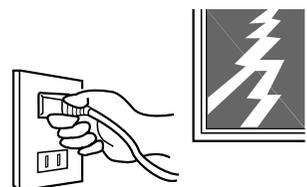
水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。



雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



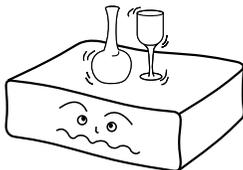
感電の原因となります。



# 警告

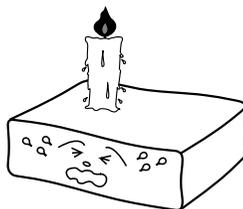
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 陶器やガラス類などを置かない



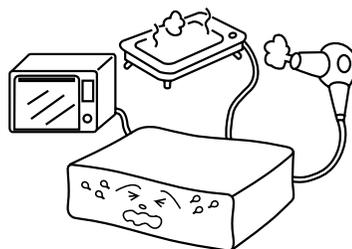
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

- ⊘ 火のついたローソクなどを置かない



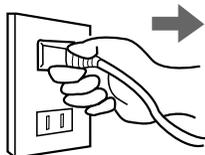
火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



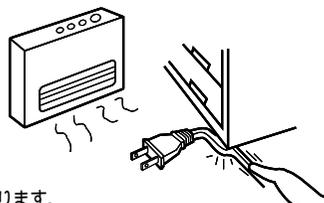
火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

- ⊘ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- ⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っ張る、束ねる、重いものをのせるなどしない）



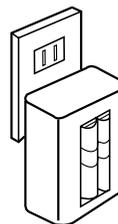
火災・感電の原因となります。コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

- ⊘ 放熱のため：  
布やテーブルクロスをかけない  
じゅうたん・カーペットの上には、設置しない  
あおむけや横倒しには設置しない  
通気性の悪い狭いところへは押し込まない  
他の機器とは重ねて設置しない



火災の原因となります。

- ⊘ 乾電池は充電しない



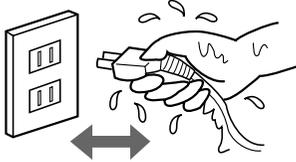
液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となります。



# 注意

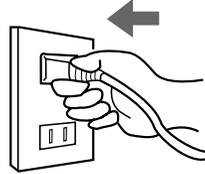
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

- ❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



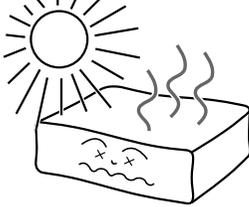
差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因となります。  
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っ張らないでください。  
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- ❗ 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



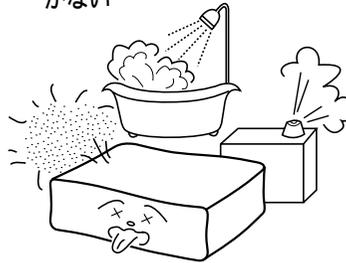
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。  
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



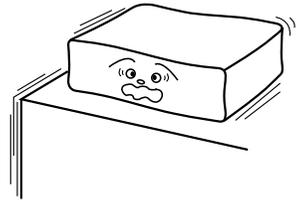
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



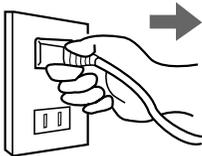
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



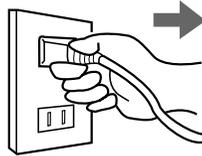
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



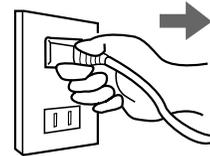
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

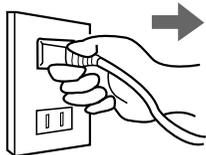


# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



火災の原因となることがあります。



再生を始める前には音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。



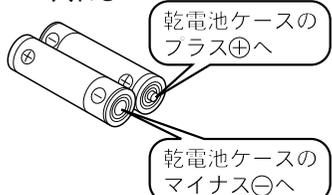
ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。



付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる

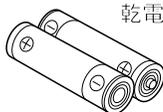


間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



指定以外の乾電池は使用しない

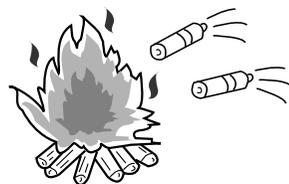
取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。



乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因となります。



1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を開めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 目次

## 本書の記載について

☞は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。

本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが本体とリモコンのボタン名が異なる場合は、リモコンのボタン名を括弧内に表記しています。

説明の便宜上、文中のイラストが実際の製品と異なる場合があります。



ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、ドルビーデジタル、PRO LOGIC、およびダブルD記号  は、ドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992～1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。さらに、以下のPCT(特許協力条約)/US95/0059 に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

付属品 / 特長 ..... 表紙裏

## 本機の機能

各部の名称とはたらき ..... 2

## ご使用の前に

スピーカーの設置 ..... 9  
接続のしかた ..... 10  
オンスクリーン表示 ..... 17  
スピーカーモードの設定 ..... 18  
スピーカーのレベル調節 ..... 19

## 基本操作

再生 ..... 21  
録音と録画 ..... 27

## 応用操作

セットメニュー ..... 28  
エフェクトスピーカーのレベル調節 ..... 35  
スリープタイマー ..... 36  
リモコンで操作する ..... 37

## 解説

音場プログラム ..... 44  
音場プログラムパラメーターを変更する ..... 47

## 参考

故障かな?と思ったら ..... 52  
仕様 ..... 55  
用語集 ..... 56  
索引 ..... 58  
メーカーコード一覧表 ..... 59  
ヤマハホットラインサービスネットワーク ..... 裏表紙

本機の機能

ご使用の前に

基本操作

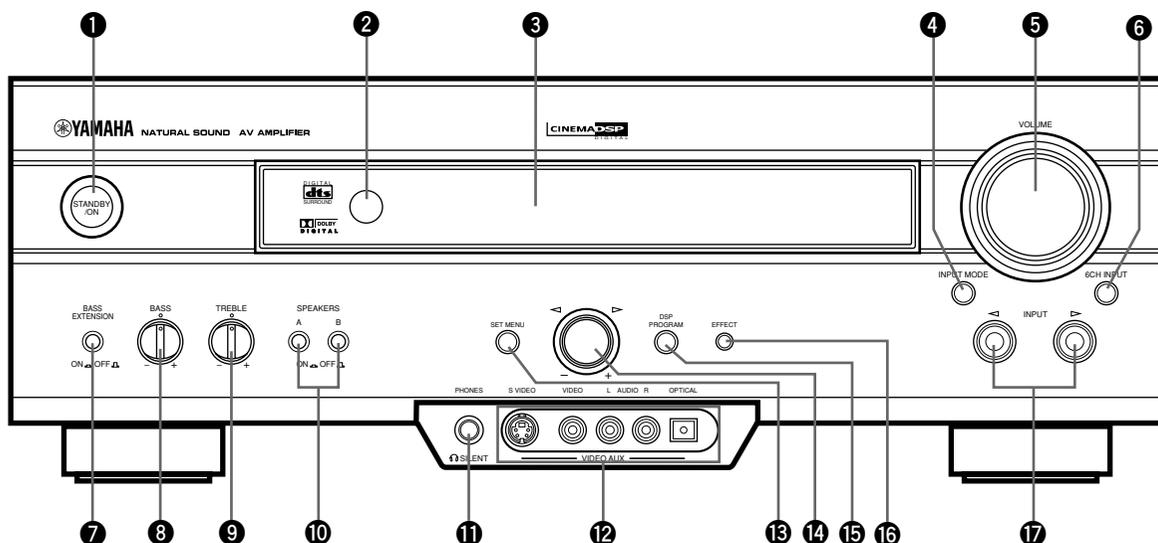
応用操作

解説

参考

# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### ① スタンバイ オン STANDBY/ONスイッチ

本機の電源スイッチです。押すごとにオンとスタンバイ(待機)が切り替わります。電源をONにしてから数秒間は音が出ません。

### ② リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号を受光します。

### ③ ディスプレイ

プログラムの名称やセットメニューなどの動作状況を表示します。

### ④ インプット モード INPUT MODEキー

お使いの同一機器を2種類以上の入力端子(デジタル、アナログ)に接続している場合、入力信号の優先順位(AUTO、DTS、ANALOG)を設定することができます。6CH INPUT端子の入力信号のモードは選択できません。

### ⑤ ボリューム VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。REC OUTレベルには影響しません。

### ⑥ チャンネル インプット 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続した機器からの信号を再生します。このキーで選択されたソースはINPUT< / >キー(またはリモコンのインプットセレクター)で選択されたものより優先されます。

### ⑦ バス エクステンション オン オフ BASS EXTENSION ON/OFFスイッチ

スイッチを押してONにすると、メインスピーカーL、Rの低音域を+6dB(60Hz)強調することができます。サブウーファを使用しない場合に効果的です。但し、セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLに、「1D LFE/BASS OUT」がSWFRに設定されている場合はあまり効果はありません。

### ⑧ バス BASSコントロール

メインスピーカーL、Rの低音域を調節します。右(+ )に回すと低音域が強調され、左(- )に回すと減衰されます。

## ⑨ TREBLEトレブルコントロール

メインスピーカーL、Rの高音域を調節します。右(+)に回すと高音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

### メモ

トーンコントロール(BASS、TREBLE)により、メインチャンネルを極端にブースト(増強)またはカット(減衰)した場合、メインスピーカーとエフェクトスピーカー(センターとリア)との音のつながりが悪くなる場合があります。

## ⑩ SPEAKERSスピーカー A/Bスイッチ

メインスピーカーA、Bを選びます。A、B両方とも使うときはAとBを押します。

## ⑪ PHONESフォーンズ端子

ヘッドホンを接続します。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音は出ません。

## ⑫ VIDEO AUXビデオ エイユーエックス端子

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。

## ⑬ SET MENUセット メニューキー

セットメニューの設定モードに入ります。

## ⑭ 選択/設定ツマミ (</>)

SET MENUキーを押したとき:

セットメニューの選択と詳細設定をします。

DSP PROGRAMキーを押したとき:

音場プログラムを選択します。

## ⑮ DSP PROGRAMプログラムキー

音場プログラムの選択モードに入ります。

## ⑯ EFFECTエフェクトキー

エフェクトスピーカー(センターとリア)をオン/オフします。オフの状態では通常のステレオ再生になり、エフェクトスピーカーからの音は出ません。

### メモ

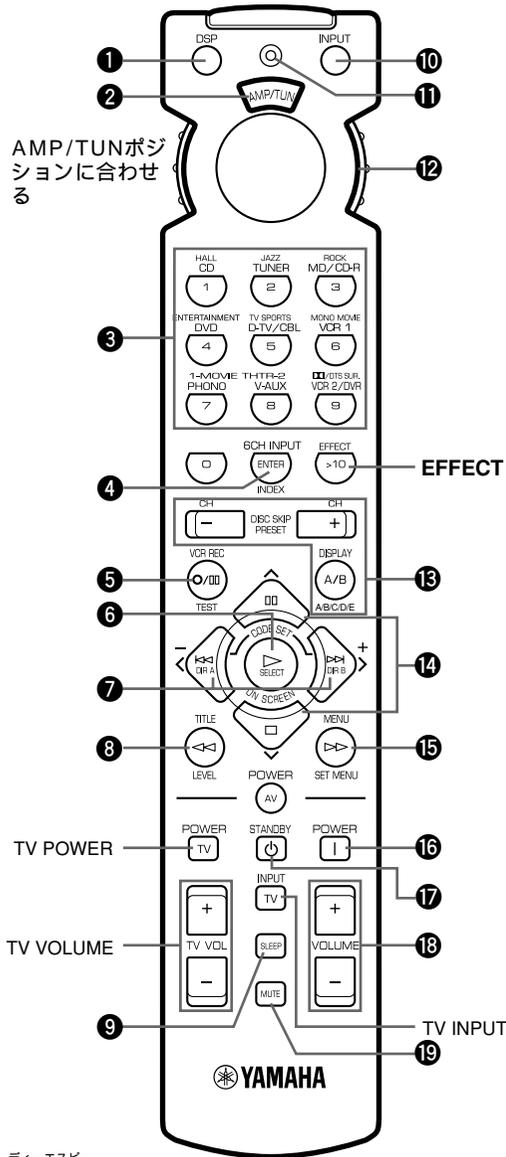
入力信号がドルビーデジタルやDTSの場合にエフェクトスピーカーをオフにすると、メインスピーカーL、Rの出力レベルが調和しないことがあります。

## ⑰ INPUTインプット </> キー

再生するソース(CD、TUNER、MD/CD-R、DVD、D-TV/CBL、VCR 1、PHONO、V-AUX、VCR 2/DVR)を選択します。

## リモコン

本機を操作する際のリモコンの各部の名称とはたらきについて説明します。まず、操作ダイヤルを回してAMP/TUN表示(ポジション)にします。他の機器を操作するにはP.37の「リモコンで操作する」をご覧ください。



ディーエスピー

**1 DSPキー**

数字キーを音場プログラムセクターに切り換えます。

**2 インジケーターウィンドウ**

操作できる機器の名前を表示します。

**3 インプットセクター(数字キー1~9)**

再生するソースを選択します。DSPキーを押したときには音場プログラムセクターとして機能します。詳しくはP.6の「数字キー、6CH INPUTキーおよびEFFECTキー」を参照してください。

チャンネル インプット

**4 6CH INPUTキー**

6CH INPUT端子に接続した機器からの信号を再生します。

テスト

**5 TESTキー**

テストトーンを出力します。

オン スクリーン

**6 ON SCREENキー**

モニター(テレビ)画面に本機の操作状態や音場プログラムのパラメーター内容などを表示することができます。押すたびに表示モードが切り換わります。

**7 </>キー(-/+キー)**

音場プログラムのパラメーターとセットメニューを調整します。オンスクリーンディスプレイには-/+と表示されます。

レベル

**8 LEVELキー**

エフェクトスピーカー(センター、リア、サブウーファー)の出力レベルをそれぞれ独立して調節できるようにします。

スリープ

**9 SLEEPキー**

スリープタイマーを設定します。

インプット

**10 INPUTキー**

数字キーをインプットセクターに切り換えます。

**11 インジケーター**

リモコンが信号を送信している間、点滅します。

**12 操作ダイヤル**

ダイヤルを回して、操作する機器を選びます。機器の正しいメーカーコードが設定されていなければなりません。P.42の「メーカーコードの設定」を参照してください。機器(ポジション)を選択すると、リモコンはその機器の操作モードになります。

エイビシーディーイー

プリセット

**13 A/B/C/D/Eキー、PRESET -/+キー**

ヤマハのチューナーを操作できます。

FM/AM放送のプリセット局を選びます。

A/B/C/D/E: プリセットグループ(A~E)を選択します

PRESET -/+ : プリセット局の番号(1~8)を選択します

**14 へ/へキー**

音場プログラムのパラメーターとセットメニューの項目を選択します。

セット メニュー

**15 SET MENUキー**

セットメニューの設定モードに入ります。

パワー

**16 POWERキー**

本機の電源をONにするときに押します。

スタンバイ

**17 STANDBYキー**

スタンバイモードにするときに押します。

### 18 ボリューム VOLUME +/- キー

接続したスピーカー全体の音量を調整します。

### 19 ミュート MUTEキー

押すと消音されます( - dB)。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

### エフェクト EFFECTキー

エフェクトスピーカー(センターおよびリア)を、次の場合にオン/オフできます。

操作ダイヤルをDSP/TUNポジションに合わせてあるとき。

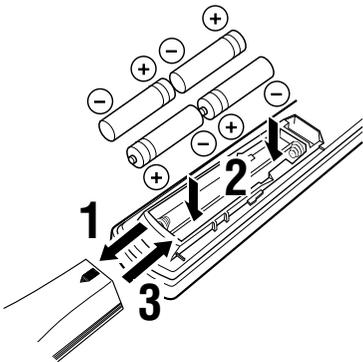
DSPキーを押した後、インジケータが約3秒間点灯している間。

## ■ 乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケータが点灯しなくなったり、インジケータが暗くなります。このような場合は全て新しい乾電池に交換してください。

電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、乾電池が消耗したままリモコンに入れておくと、メモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定しなおしてください( P.42「メーカーコードの設定」参照 )。

## リモコンの電池の入れ方



**1** リモコンの裏蓋を マークを押しながら開けます。

**2** 付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス(+ )とマイナス(- )の向きを間違えないように、正しく入れます。

**3** 裏蓋を閉めます。

## ■ 乾電池についてのご注意

消耗した乾電池は早めに交換してください。

新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

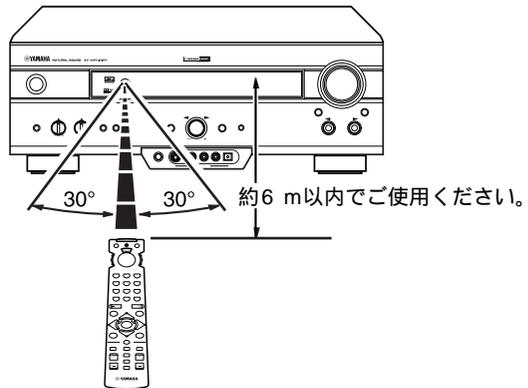
種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

乾電池が液漏れをした場合はただちに破棄してください。

漏れた液に触れたり衣類などに付着しないように注意してください。

新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

## リモコンの使用範囲



リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

## ■ リモコンの取り扱いについて

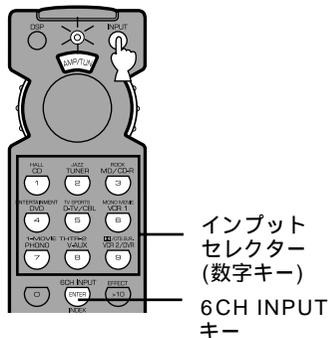
水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。

- ストープのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
- ほこりの多いところ。
- 極端に寒いところ。

## 数字キー、6CH INPUTキーおよびEFFECTキー

数字キーは、操作ダイヤルのポジションまたは他の操作の組み合わせに応じて、さまざまな機能を持ちます。

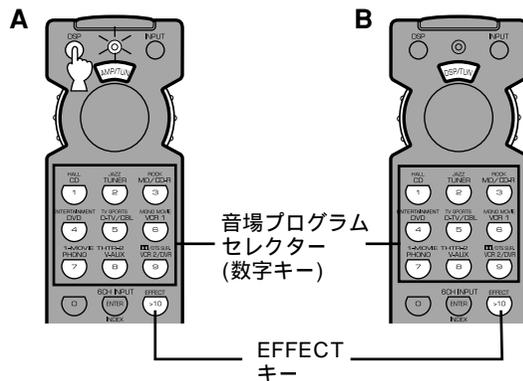
### ■ 再生するソースを選択するとき



- 1** 操作ダイヤルのポジションに関係なく、INPUT キーを押します。  
インジケーターが約3秒間点灯します。

- 2** インジケーターが点灯している間、数字キーおよび6CH INPUTキーで再生するソースを選択できます。

### ■ 音場プログラムを選択するとき、およびエフェクトスピーカー（センターおよびリア）をオン/オフするとき



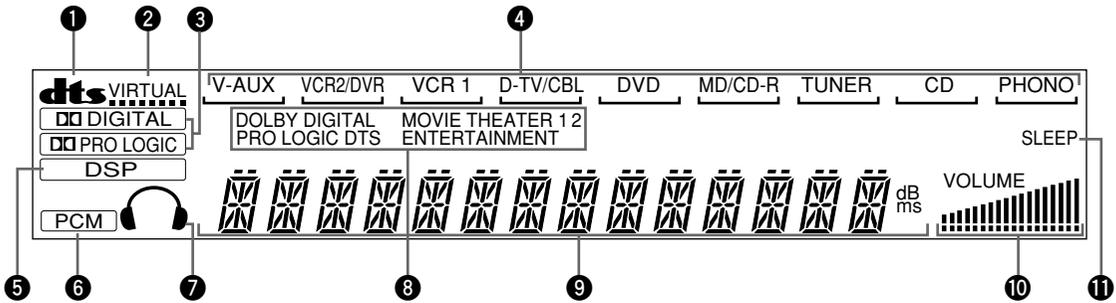
- 1** 操作ダイヤルのポジションに関係なく、DSP キーを押します。  
インジケーターが約3秒間点灯します。

- 2** インジケーターが点灯している間、数字キーで音場プログラムを選択できます。また、EFFECT キーを押してエフェクトスピーカー（センターおよびリア）をオン/オフできます。

- 1** 操作ダイヤルをDSP/TUNポジションにします。

- 2** 音場プログラムを数字キーで直接選択できます。また、EFFECTキーを押してエフェクトスピーカー（センターおよびリア）をオン/オフできます。

## ディスプレイ



## ① dts インジケータ

DTSデコーダーが動作すると点灯します。

② バーチャル VIRTUAL インジケータ

バーチャルシネマDSP時に点灯します。

③ DOLBY DIGITAL、PRO LOGIC DTS インジケータ

本機に入力されたドルビーデジタル信号によって点灯します。ドルビーデジタルデコーダーが動作すると

“DOLBY DIGITAL”が、ドルビープロロジックデコーダーが動作すると“PRO LOGIC DTS”が点灯します。

## ④ 入力ソースインジケータ

インプットセレクターで選んだソース名の下にカーソルが点灯します。

⑤ DSP インジケータ

音場プログラムを選択すると点灯します。

⑥ PCM インジケータ

PCM信号を入力すると点灯します。

## ⑦ ヘッドホンインジケータ

PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

## ⑧ 音場プログラムインジケータ

音場プログラムのENTERTAINMENT、MOVIE

THEATER 1、MOVIE THEATER 2、およびDOLBY DIGITAL/DTS

SURROUNDを選択したとき各々のインジケータが点灯します。

## ⑨ 音場プログラム名/設定値表示

通常は選択した音場プログラム名が表示されています。

また、スピーカーレベルやセットメニューなどのさまざまな設定値を、各々の操作に応じて表示します。

⑩ ボリューム VOLUME インジケータ

音量レベルを表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えていきます。

⑪ スリープ SLEEP インジケータ

スリープタイマーの動作中に点灯します。



# スピーカーの設置

## 使用するスピーカー

本機はメインスピーカーL、R(2本)、センタースピーカー(1本)、リアスピーカーL、R(2本)の5スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、同一メーカーの音色の揃ったスピーカーの使用をお勧めします。

メインスピーカーはメインチャンネルの音(通常のステレオ音声)に加えて効果音を出力し、リアスピーカーはサラウンドと効果音を、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。センタースピーカーを使用しなくても十分な効果は得られますが、5スピーカーシステムにおいて、最も良い音響効果が得られません。

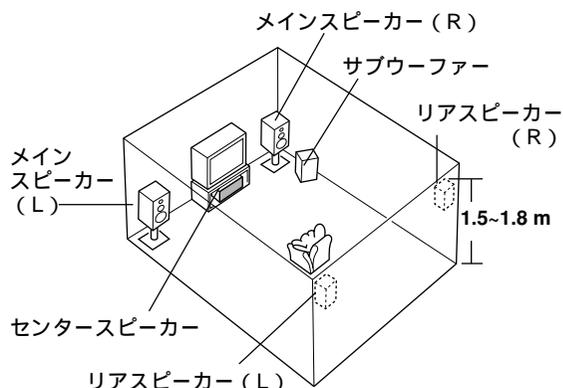
メインスピーカーはできるだけ本機からの最大出力に対応できるものをお使いください。その他のスピーカーはメインスピーカーと必ずしも同等である必要はありませんが、再生するソフトをより効果的に表現するためには、メインスピーカーと同等の高品質のスピーカーをご使用ください。

### ■ サブウーファーの設置

サブウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTSソフトのLFE信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力にはヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をお勧めします。

## スピーカーの設置場所

下図を参考の上、スピーカーを設置してください。



### ■ メインスピーカー

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、左右のスピーカーとモニター(テレビ)の距離を等しく設置します。

### ■ リアスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

### ■ センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、モニター(テレビ)画面とスピーカーの前面を揃え、モニター(テレビ)の上や下など、できるだけモニター(テレビ)画面に近いところの中央に設置します。

### メモ

センタースピーカーをご使用にならないときは、センターチャンネルからの音声をメインスピーカーL、Rに振り分けることができます。この場合、セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定してください。

### ■ サブウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試してください。

### 注意!

スピーカーは防磁タイプをお使いください。防磁タイプのスピーカーをご使用になっても、モニター(テレビ)の画面が乱れるなどの影響が出る場合はスピーカーをモニター(テレビ)から離して設置してください。

# 接続のしかた

## 正しい接続のために

### 注意!

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

右チャンネル(R) \ 左チャンネル(L) \ 入力(IN) \ 出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどと接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(①、②、③など)のついた端子を接続してください。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

## オーディオ機器の接続

### ■ デジタル端子の接続

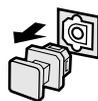
本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子コアキシャル (COAXIAL[同軸]/オプティカル OPTICAL [光])を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS兼用です。)COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています。



デジタル入力端子の入力機器の設定をセットメニュー「4 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)



### メモ

本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

### ■ レコードプレーヤーの接続

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。



SIGNAL GND端子は、安全アースではありません。アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。(レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をSIGNAL GND端子に接続しない方がハムノイズが減少することがあります。)

### ■ チューナーの接続

AM/FMステレオチューナーを接続します。放送を良い音で聞くために、チューナーにアンテナを正しく接続してください。詳しくはご使用になるチューナーの取扱説明書を参照してください。

### ■ CDプレーヤーの接続



CDプレーヤーのCOAXIALデジタル出力端子と、本機のCOAXIAL CD端子をつなぎます。CDのアナログ端子とデジタル端子に同時に信号が入ると、デジタル端子の入力信号が優先されます。

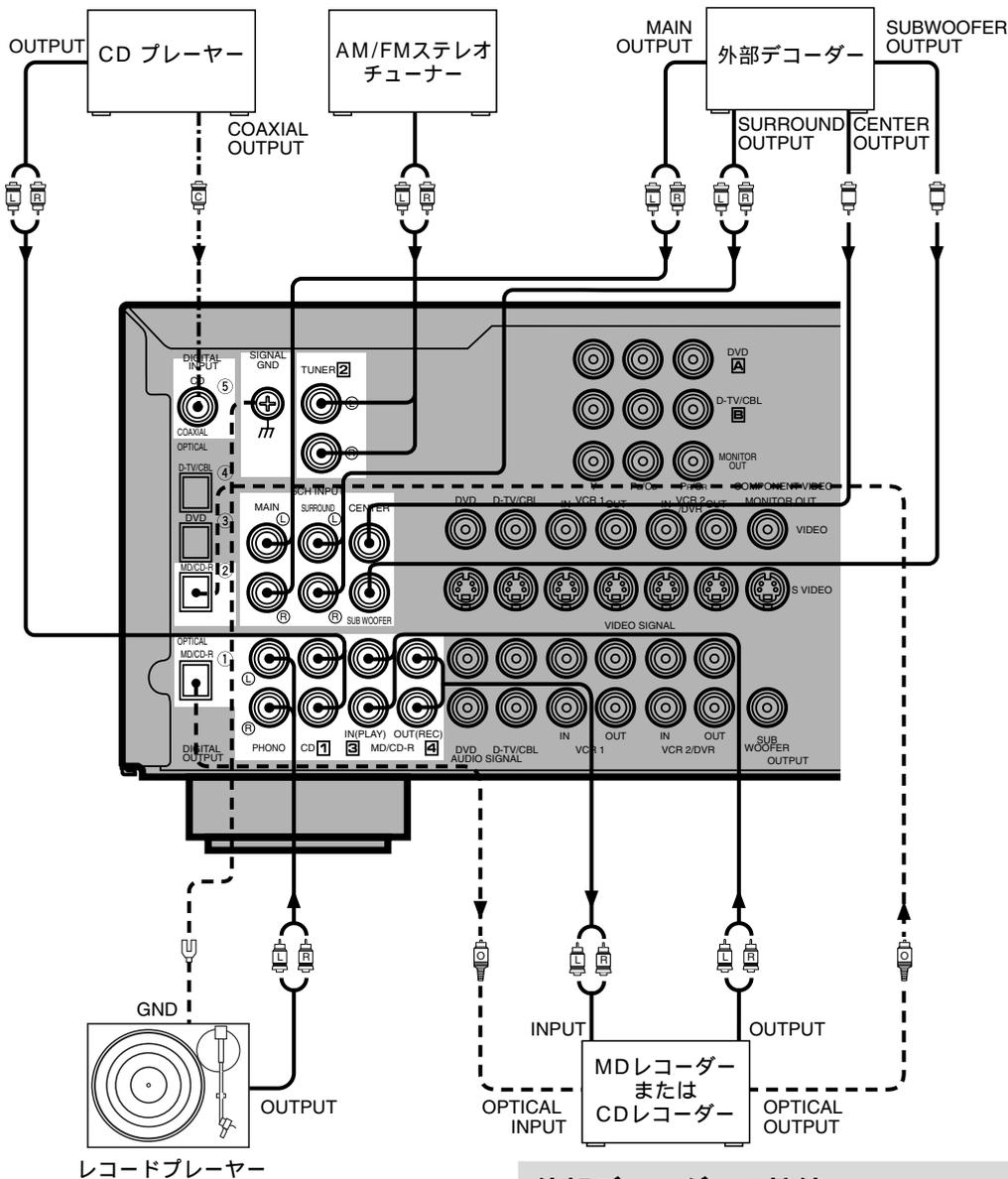
### ■ MDレコーダー、CDレコーダーまたはテープデッキの接続



録音機器をアナログとデジタルの入出力端子に接続した場合は、デジタル信号が優先されます。

### メモ

本機の使用中は接続してある録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。デジタルOUTとアナログOUT(REC)は独立しているため、アナログ信号はアナログ端子に、デジタル信号はデジタル端子にのみ出力されます。



レコードプレーヤー

- 信号の流れ
- (L) — アナログ音声左 (L) 接続コード
- (R) — アナログ音声右 (R) 接続コード
- - - (O) 光デジタル接続コード
- - - (C) 同軸デジタル接続コード

### 外部デコーダーの接続

6CH INPUT端子に6(5.1)チャンネル外部デコーダー、プロセッサーやプリアンプなどを接続することができます。またハイビジョンTVやMUSEデコーダーの3.1チャンネル音声をつなぐこともできます。

外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

### メモ

外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。  
6CH INPUT端子から入力した信号には、スピーカーモードの設定(セットメニューの1Aから1D)は適応されません。

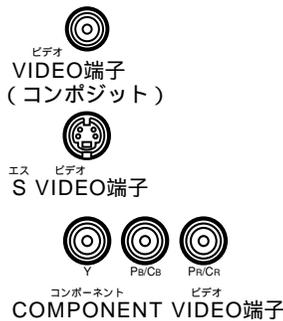
使用前の  
前に

## ビデオ機器の接続

### ■ ビデオ端子について

本機には3種類のビデオ端子が備えられています。VIDEO端子はコンポジット信号を伝送します。S VIDEO信号は、ビデオ信号(コンポジット信号)の輝度を表わす信号(Y信号)と、色を表わす信号(C信号)に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。COMPONENT VIDEO端子はビデオ信号を、輝度を表す信号(Y信号)と色を表す信号(Pb/CbおよびPr/Cr信号)の3系統に分けて伝送します。それぞれが独立しているため、色をより忠実に再現します。COMPONENT VIDEO端子の表示には、メーカーにより“Y、Pb、Pr”、“Y、Cb、Cr”や“Y、B-Y、R-Y”などがあります。正しく接続するためにモニターおよび再生機器の取扱説明書を参照してください。

お使いのビデオ機器のSビデオ出力、コンポーネントビデオ出力を本機に接続できます。Sビデオ出力をS VIDEO端子に、コンポーネントビデオ出力をCOMPONENT VIDEO端子に接続してください。



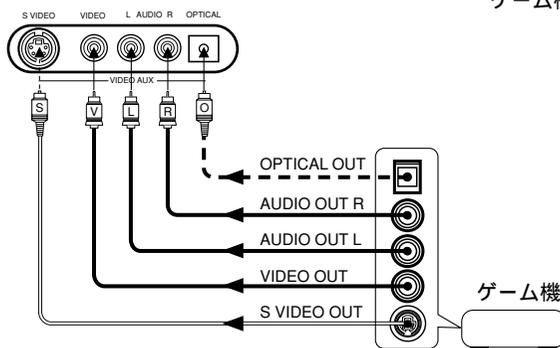
本機では、COMPONENT VIDEO端子、S VIDEO端子とコンポジットのVIDEO端子間は独立しています。VIDEO端子から入った信号はVIDEO端子に、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。S VIDEO端子に接続している場合、VIDEO端子に接続する必要はありません。両方に接続している場合はSビデオ信号が優先されます。COMPONENT VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニュー「4 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます。本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

### メモ

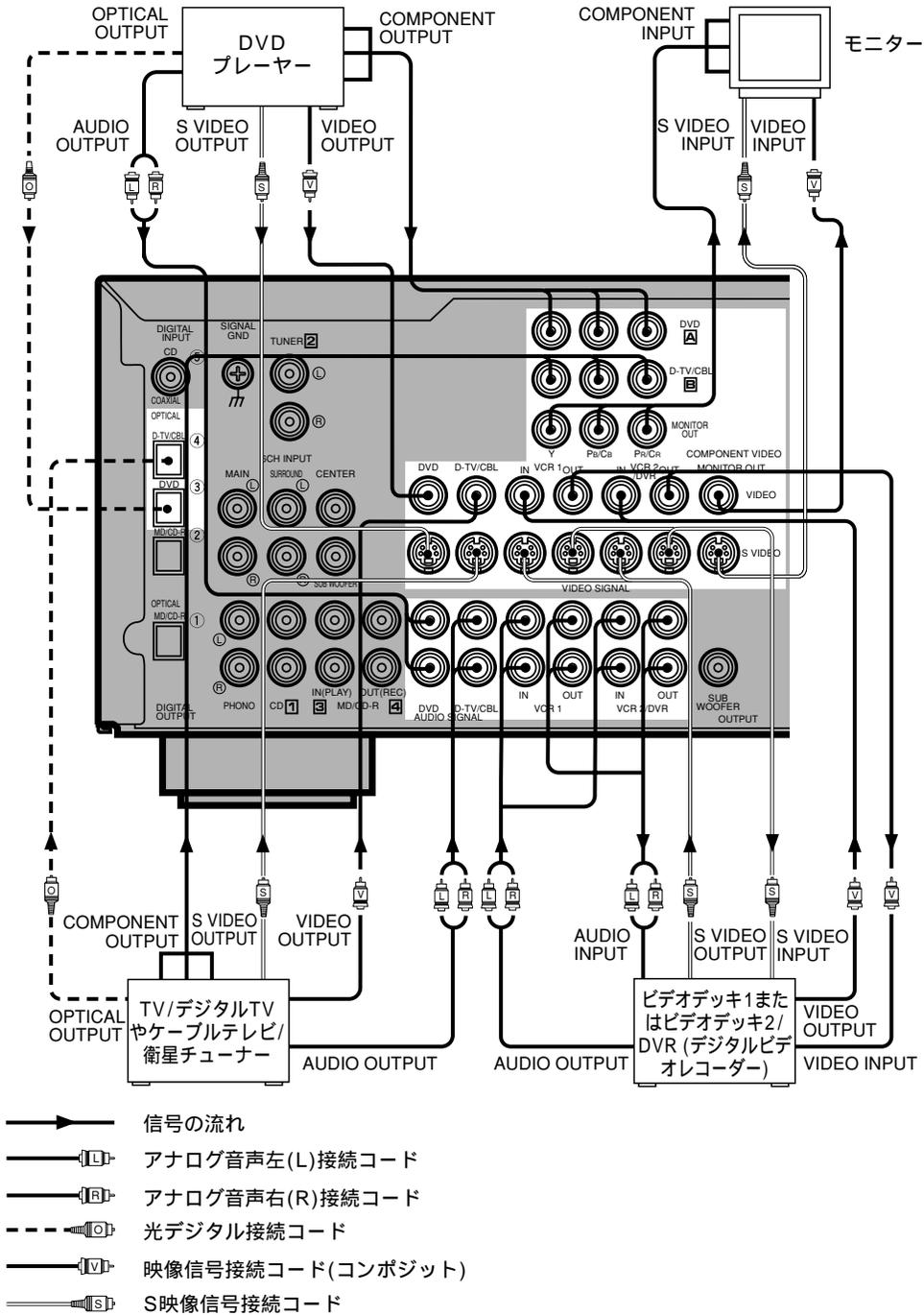
S VIDEOおよびCOMPONENT VIDEO端子の接続にはそれぞれ専用のビデオケーブル(市販)を用意してください。COMPONENT VIDEO端子に接続した機器の操作については、その機器の取扱説明書をご覧ください。

### ■ VIDEO AUX端子(フロントパネル)

ビデオ エイコーエックス



ゲーム機などを接続する予備入力端子です。



LDプレーヤーをご使用になるときは

LDプレーヤーの出力を、DVD端子に接続します。

LDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL DVD端子とつながります。アナログ端子の場合は、アナログのDVD端子につながります。ドルビーデジタル信号(AC-3)を出力する「RF OUTPUT端子」がある場合は、別売市販のRFデモジュレーターを使用し、OPTICAL DVD端子につながります。

DVDプレーヤーとLDプレーヤーの両方を接続する場合は、LDプレーヤーをD-TV/CBLなどのデジタル入力端子に、またはD-TV/CBL、VCR 1、VCR 2/DVRのアナログ入力端子につなぐことができます。

詳しい接続と操作についてはLDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

なお、LDプレーヤーのメーカーコードをDVD/LDポジションにセットすると本機のリモコンで操作ができます。

## スピーカーの接続

接続する際に、右チャンネル(R)左チャンネル(L)“+(赤)”-(黒)を確認して正しく接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

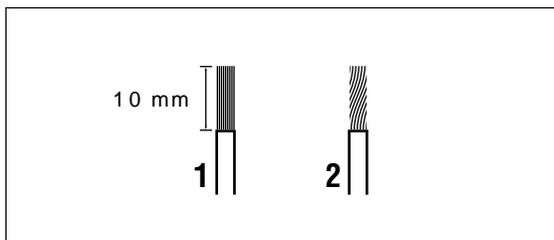
### 注意!

スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて自動的に電源が切れますが、故障の原因になる恐れがあります。

接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続後、ご使用になるスピーカーの数や性能に応じてセットメニューのスピーカーモードを設定してください。

### ■ スピーカーコード

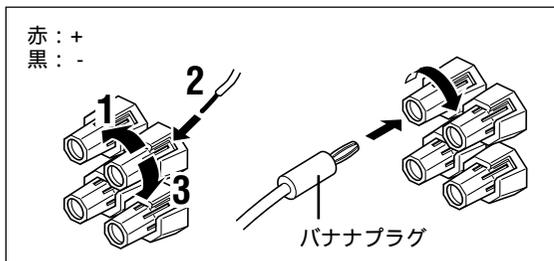


一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

**1** スピーカーコード先端の絶縁部(被覆)を10mm位はがします。

**2** ショートを防ぐために、芯線をしっかりとよじります。

### ■ スピーカー端子の接続



**1** スピーカー端子を左に回してゆるめます。

**2** スピーカー端子のわきの穴にスピーカーコードの芯線を差し込みます。

**3** スピーカー端子を右に回して締め付けてください。



市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

### ■ メイン MAIN SPEAKERS スピーカー端子

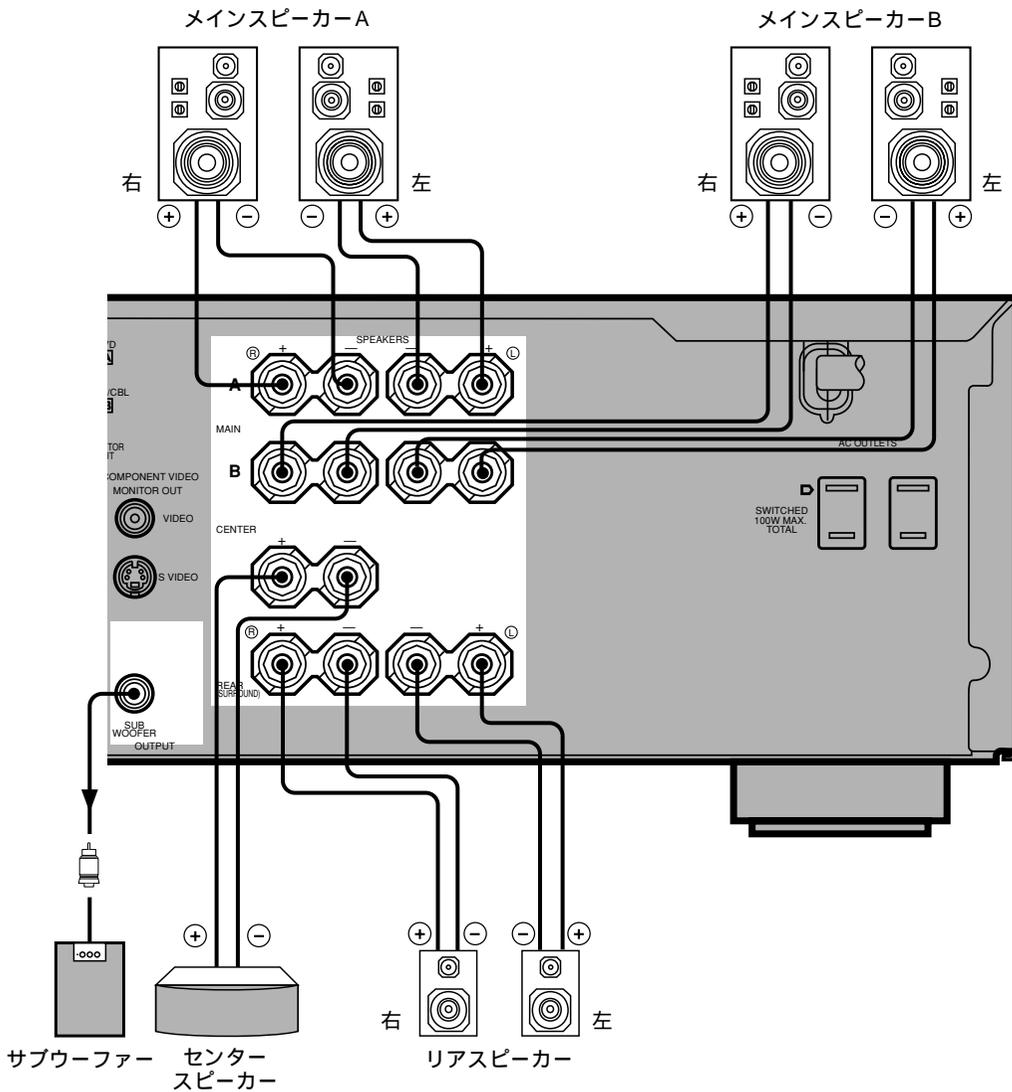
2組のスピーカーまで接続することができます。1組のスピーカーをご使用の場合は、MAIN AまたはB端子のどちらかに接続してください。

### ■ リア REAR SPEAKERS スピーカー端子

リアスピーカーを接続します。

### ■ センター CENTER SPEAKER スピーカー端子

センタースピーカーを接続します。



## ■ サブウーファースの接続

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。

メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号(90Hz以下)はこの端子に送られます。ドルビーデジタルやDTSデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

### メモ

SUBWOOFER端子からの出力レベルは本機のリモコンにて設定できます(P.35「エフェクトスピーカーのレベル調節」参照)が、お使いのサブウーファースの取扱説明書も参照してSUBWOOFERの音量レベルを設定してください。

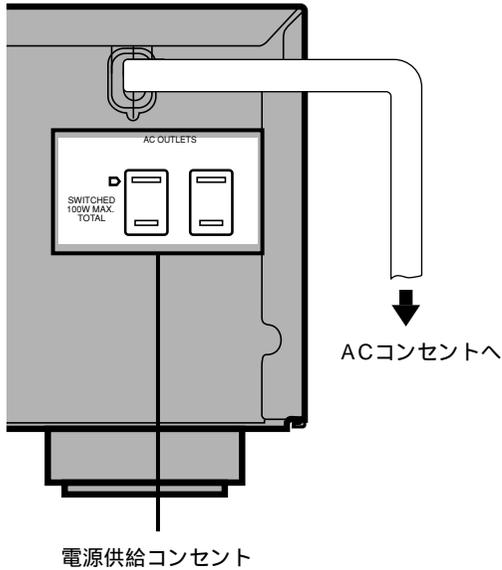
セットメニュー「1 SPEAKER SET」、「6 DOLBY D. SET」、「7 DTS SET」の設定によってはSUBWOOFER端子から出力されない信号もあります。

## 電源コードの接続

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。本機の消費電力は200Wです。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

エイシー アウトレット スイッチド

### ■ AC OUTLETS SWITCHED (電源供給コンセント)



外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機の電源スイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器に、電源を供給することができます。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

# オンスクリーン表示

本機にモニター(テレビまたはプロジェクター)を接続すると、本機の操作内容などを表示(オンスクリーン表示)させることができます。セットメニューや音場パラメーターを設定する際にオンスクリーンを使うと、本体のディスプレイ表示に比べて見やすく便利です。



映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。

オンスクリーン表示はREC OUT端子に出力されないため映像と一緒に録画されることはありません。

ビデオソースを再生していないとき(あるいは再生機器の電源が入っていないとき)、セットメニューの「9 DISPLAY SET」でオンスクリーン表示のオート(ブルーバック)/オフを設定できます。

## 表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

### 全表示

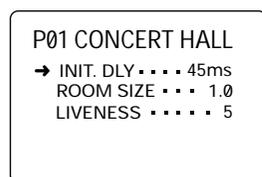
音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます。

### 簡易表示

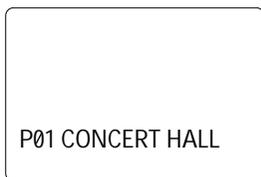
本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。

### 表示OFF

モニター画面の下に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。



全表示例



簡易表示例



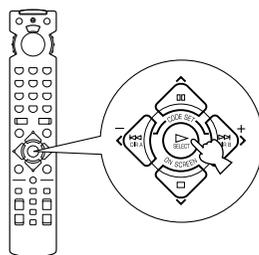
全表示の場合、INPUT </> キーやVOLUMEコントロールなどの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。

セットメニューやテストトーン時は、表示の種類にかかわらずオンスクリーン表示されます。

## 表示の切り換え

**1** 電源を入れると、モニター画面および本体のディスプレイにメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示になります。

**2** リモコンのON SCREENキーを押すと、表示フォーマットが全表示 簡易表示 表示OFF 全表示 ...の順に切り換わります。



## メモ

S VIDEO端子とVIDEO端子の両方を接続しているソースを選択し、さらにMONITOR OUTにS VIDEO端子とVIDEO端子の両方が接続されている場合、映像は両方に出力されますが、オンスクリーンはS VIDEO側に表示され、VIDEO側には表示されません。映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。COMPONENT VIDEOのMONITOR OUT端子につないだモニター画面には、オンスクリーン表示されません。オンスクリーン表示をさせたい場合は、S VIDEO端子かVIDEO端子のどちらかにも接続してください。コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

# スピーカーモードの設定

本機は5.1チャンネル対応のメインアンプを備えています。

最大6本のスピーカーを使用することができますが、ご使用になられるスピーカーの数や大きさに合わせた最良の音場効果を得るためにスピーカーモードを設定することができます。

ご使用前にP.29セットメニューの「1 SPEAKER SET(スピーカーモードの設定)」にて下記の5項目のスピーカーモードを設定してください。

## SPEAKER SET 1 A ~ 1 E の設定内容

項目	設定内容	可変範囲 (太字は初期設定)
<small>センタースピーカー</small> 1A CENTER SP	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LRG/SML/NONE
<small>メインスピーカー</small> 1B MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE/SMALL
<small>リアエルアールスピーカー</small> 1C REAR L/R SP	リアスピーカーL、Rの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LRG/SML/NONE
<small>エルエフイーバスアウト</small> 1D LFE/BASS OUT	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SWFR/MAIN/BOTH
<small>メインレベル</small> 1E MAIN LEVEL	メインスピーカーレベルを選択します。	Normal/ - 10dB

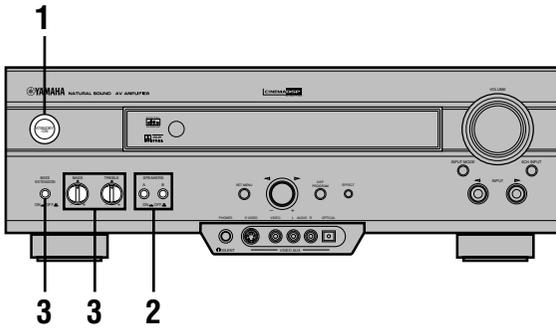
# スピーカーのレベル調節

テストトーンを使ってリスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーを最良の環境で使用するために重要です。

## メモ

ヘッドホンをつないでいるとテストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。

## 調節の前に行うこと

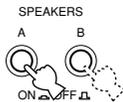


**1** 電源を入れます。モニターの電源も入れます。



**2** SPEAKERS AもしくはBスイッチを押して使用するメインスピーカーを選択します。

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押しします。



**3** BASS EXTENSION スイッチをOFFにします。本体のトーンコントロール( BASS, TREBLE )を中央にセットします。

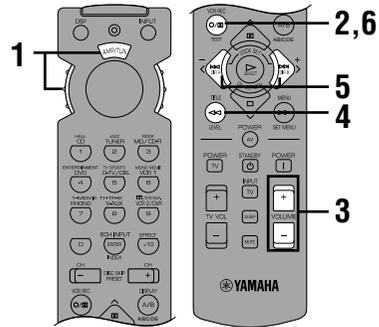


OFFにする



## テストトーンによる調節 テスト ドルビー サラウンド (TEST DOLBY SUR.)

調節は必ずリスニングポジションで行います。



**1** 操作ダイヤルをAMP/TUN (またはDSP/TUN)のポジションにします。

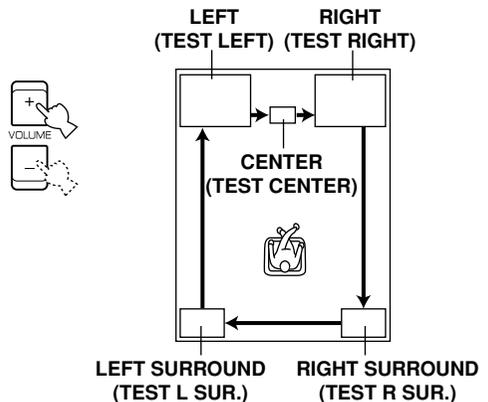


**2** TESTキーを押すとテストトーンが出力されます。



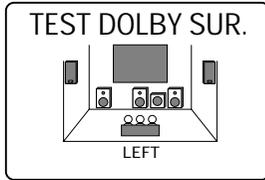
**3** テストトーンが聞こえるように音量を調節します。

テストトーンは、LEFT(メインLスピーカー) CENTER(センタースピーカー) RIGHT(メインRスピーカー) R. SUR.(リアRスピーカー) L. SUR.(リアLスピーカー) ...の順で循環し、それぞれ約2.5秒間ずつ聞こえます。



## スピーカーのレベル調節

テストトーンの出力量態は、リスニングルームのイラストでわかりやすくモニターに表示されます。



セットメニュー「1A CENTER SP」をNONEに設定した場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーと同じレベルで振り分けられ、調節することはできません。

### メモ

テストトーンが聴こえない場合は、音量を絞って電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

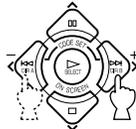
## 4 LEVELキーを押して調節するスピーカーを選びます。



一度LEVELキーを押すと、∨または∧キーで調節するスピーカーを選べます。



## 5 <または>キーを押して、現在選んでいるスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。



調節中はテストトーンはそのスピーカーに固定されます。

手順4と5を繰り返してセンター、リアL、Rのスピーカーの音量を調節します。

## 6 調節が終わったら、TESTキーを押します。

テストトーンは止まり、本体ディスプレイとモニター画面は音場プログラム表示になります。



### メモ

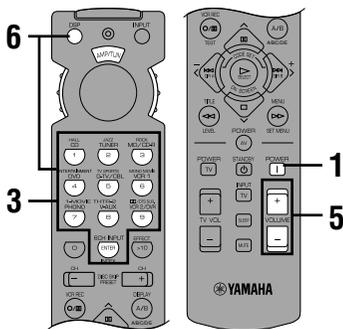
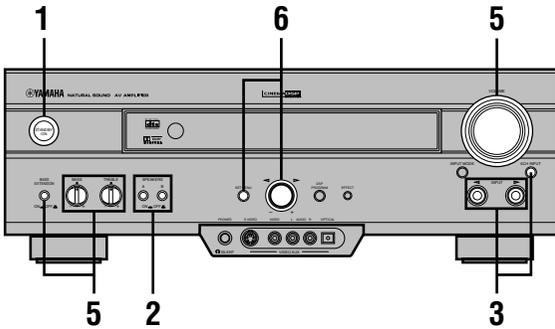
サブウーファーのスピーカー調整についてはP.35「エフェクトスピーカーのレベル調節」を参照ください。テストトーンでの調節後、P.35「エフェクトスピーカーのレベル調節」にて実際のソースの再生音を聞きながらお好みに応じてスピーカーレベルの調節が行えます。



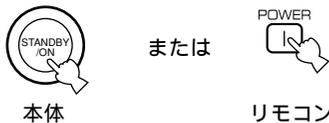
エフェクトスピーカー(センターおよびリアL、R)の音量レベルを+10dBまで上げてメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1E MAIN LEVEL」を-10dBに設定します。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。

# 再生

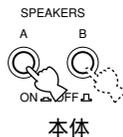
リモコンをご使用の場合は、操作ダイヤルをAMP/TUNのポジションにします。



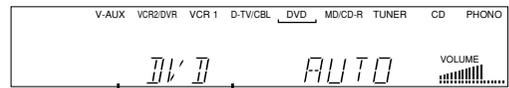
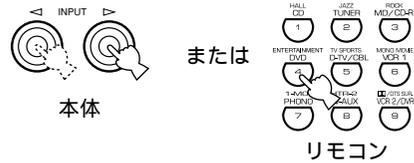
**1** STANDBY/ONスイッチ(またはPOWERキー)を押して電源を入れます。モニターの電源も入れます。本体ディスプレイとモニター画面にはメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示に変わります。



**2** SPEAKERS AもしくはBスイッチを押して使用するメインスピーカーを選択します。2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。



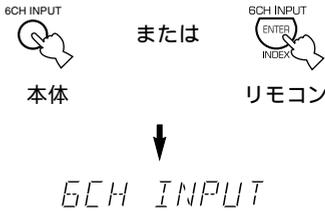
**3** INPUT ◀ / ▶ キー(またはインプットセクター)を押して再生するソースを選びます。本体ディスプレイの入力ソース名の下にカーソルが点灯します。入力ソース名と入力モードが数秒間本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



選択した入力ソース

- PHONO: レコードを聴く。
- CD: CDを聴く。
- TUNER: AM/FMステレオチューナーで放送を聴く。
- MD/CD-R: MD、CD-Rまたはテープを聴く。
- DVD: DVDを見る。
- D-TV/CBL: テレビまたはデジタルテレビ放送、衛星放送またはケーブルテレビ放送を見る。
- VCR 1: ビデオデッキ1のビデオを見る。
- VCR 2/DVR: ビデオデッキ2またはデジタルビデオレコーダーのビデオを見る。
- V-AUX: フロントパネルのVIDEO AUX端子につないだAV機器を再生する。

6CH INPUT端子に接続したソースを選択する  
6CH INPUTキーを押して、“6CH INPUT”を本体ディスプレイとモニター画面に表示させます。

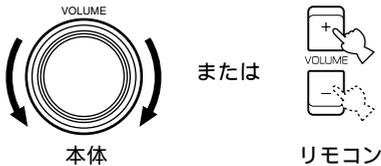


## メモ

“6CH INPUT”が本体ディスプレイとモニター画面に表示されている場合、ほかのソースを再生することはできません。INPUT </> キー(またはインプットセクター)を使って別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押して本体ディスプレイとモニター画面から“6CH INPUT”の表示を消してください。映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。

**4** 機器の再生(または放送の受信)を始めます。  
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

**5** 音量を調節します。



BASSコントロール、TREBLEコントロールおよびBASS EXTENSIONスイッチでメインスピーカの音質も調整できます。

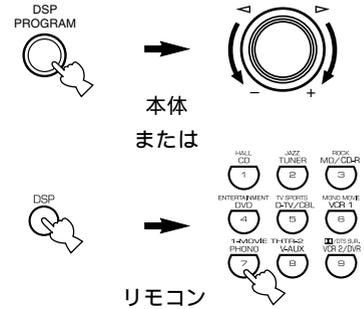


## メモ

REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合、再生音が歪んだり、音量が下がることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてご使用ください。

**6** 音場プログラムを選択します。

音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選択します。



## ■ 消音する(音をミュートする)

一時的に音を消したいときにご使用ください。

リモコンのMUTEキーを押します。



前の音量に戻すには、もう一度MUTEキーを押してください。



VOLUME +/- キーや音場プログラムキーなどを押ししてもミュートは解除できます。

消音中(ミュート中)に、本体ディスプレイとモニター画面に“MUTE ON”が表示されます。

## ■ 本機の使用を終了するとき

STANDBY/ONスイッチ(またはSTANDBYキー)を押して、本機の電源をスタンバイモードにしてください。

## ■ デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzのデジタル信号にも対応しています。これを利用するには、96kHzデジタル信号で作られたソースとこれに対応したプレーヤーが必要です。詳しくはプレーヤーの取扱説明書を参照してください。96kHzデジタル信号を入力する場合、次の点にご注意ください。

1. 以下の表示がディスプレイに表示されます。



2. 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。

## メモ

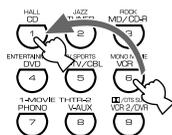
セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLで「1D LFE/BASS OUT」がSWFRに設定されている場合、または「1D LFE/BASS OUT」がBOTHに設定されている場合、サブウーファーからも音が出ます。

3. P.35で説明されているスピーカ出力レベル調節(サブウーファーレベルを除く)ができなくなります。

## ■ BGV (バックグラウンドビデオ) 機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンのインプットセクターで、オーディオ系ソースを選択します。BGV機能はフロントパネルのINPUT </> キーではできません。



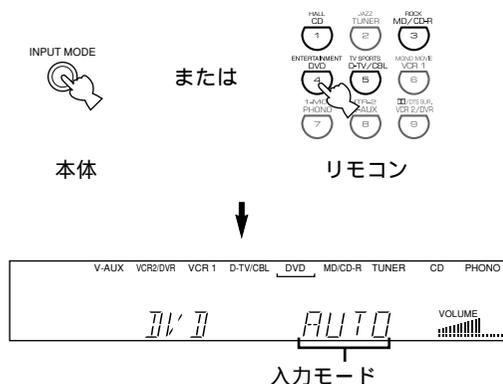
リモコン

## 入力モードと表示

リモコンをご使用の場合は、操作ダイヤルをAMP/TUNのポジションにします。

本機には、デジタル(同軸、光)アナログなど各種の入力端子が付いています。お使いの同一機器を2種類以上(デジタル、アナログ)の入力端子に接続している場合、入力信号の優先順位を設定することができます。

希望する入力モードが本体ディスプレイとモニター画面に表示されるまで、INPUT MODE キー(または入力ソースを選択するために押したリモコンのインプットセクター)を繰り返し押ししてください。



- AUTO: 次の順序で入力信号が自動的に選択されます。  
 1)ドルビーデジタルまたはDTS信号  
 2)デジタル(PCM)信号  
 3)アナログ信号
- DTS: このモードでは、別の信号が同時に入力されてもDTS信号に固定されます。
- ANLG (ANALOG): アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

## メモ

OPTICAL(光)入力端子とCOAXIAL(同軸)入力端子に同時にデジタル信号が入力された場合、COAXIAL(同軸)入力端子からのデジタル信号が優先されます。入力モードがAUTOの場合、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、本機は自動的にデコーダーを選択して5.1チャンネルソースを再生します。以下の場合、一部のLDおよびDVDプレーヤーで音声出力が遮断されることがあります: 入力モードがAUTOに設定されている状態で、ドルビーデジタルまたはDTSソースを再生中にサーチ(早送り)をして再び再生を始めると、音声少し遅れて出力されます。入力モードがAUTOの状態デジタル録音されていないLDを再生する場合、プレーヤーによっては音声とぎれたり再生されないことがあります。この場合は入力モードをANALOGに設定してお使いください。

## ■ dts-CD/LDの再生に関する注意

プレーヤーのデジタル出力信号に何らかの処理(音量レベル可変処理)がされている場合、DTS信号として認識されないため、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTSソースを再生することはできません。

DTSソースを再生するには、ソースをデジタル入力端子に接続し、必ず入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、ノイズが出る場合があります。

DTSソースを再生中に、入力モードをANALOGに切り換えた場合、音声は出力されません。

入力モードをAUTOに設定してDTSソースを再生する場合には:

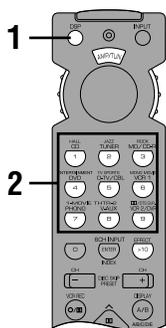
本機はDTS信号を検知すると自動的に“DTSモード”(“**dts**”インジケータ点灯)になります。DTSソースの再生が終了したとき、“**dts**”インジケータが点滅することがあります。このインジケータが点滅している間は、DTSソースしか再生することができません。すぐに通常のPCMソースを再生したい場合は、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。

プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号が途切れると、“**dts**”インジケータが点滅することがあります。この状態が数十秒以上続くと、自動的に“DTSモード”からデジタル(PCM)信号入りに切り換わり、“**dts**”インジケータは消えます。

## 音場プログラムの選択

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つシネマDSP音場プログラムを内蔵しています。再生するときに好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各プログラムについてはP.44「音場プログラム」を参照してください。

### ■ リモコンで操作するとき



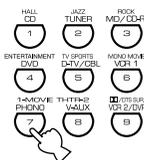
- 1 DSPキーを押します。  
インジケータが約3秒間点灯します。



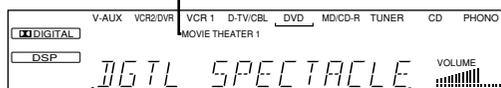
操作ダイヤルをDSP/TUNポジションにしてあるときは、この手順は不要です。

- 2 インジケータが点灯している間に、数字キーで音場プログラムを選択します。

例えば、MOVIE THEATER 1を繰り返し押しすとサブプログラムの「SPECTACLE」を選べます。プログラム名は、本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。

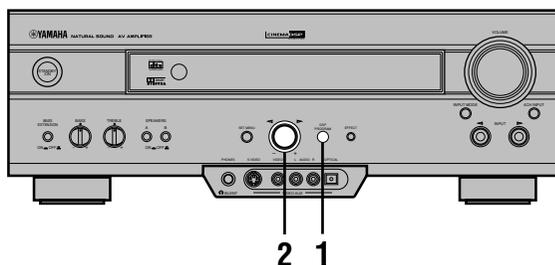


プログラムグループ



プログラム名(サブプログラム)

### ■ 本体で操作するとき



- 1 DSP PROGRAMキーを押します。



- 2 選択/設定ツマミ(</>)を回して音場プログラムを選択します。  
プログラム名は、本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。



#### メモ

音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選択してください。リスニングルームの音響効果は音場再生に影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内の反射音を最小限に抑えてください。

入力ソースを選択すると、本機は自動的にその入力ソースで最後に使用された音場プログラムを選択します。本機をスタンバイモードにすると、今まで再生していたソースと音場プログラムがメモリーされ、電源をONにしたとき自動的に選択されます。

入力モードがAUTOの場合に、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、音場プログラムは入力ソースに対応して自動的に切り換わります。

モノラルソースをPRO LOGIC/NORMALまたはPRO LOGIC/ENHANCED音場で再生した場合は、センタースピーカーからのみ音声が出力されます。メインスピーカーとリアスピーカーからは出力されません。ただし、セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEに設定されている場合は、センターチャンネルの音声メインスピーカーから出力されます。

6CH INPUT端子に接続されているソースを再生した場合は、本機の音場プログラムは使用できません。サンプリング周波数96kHzデジタル信号が入力されている場合は、音場プログラムを選択することができません。その場合、音声は通常の2チャンネルステレオとして再生されます。

## ■ バーチャルシネマDSPとサイレントシアター

### バーチャルシネマDSP

リアスピーカーがなくても全ての音場プログラムを楽しむのがバーチャルシネマDSPです。ヤマハ独自の技術によって、仮想的なスピーカーを生成していますから自然なサラウンド再生が得られます。

セットメニューの「1C REAR L/R SP」をNONEに設定すると、選択された音場プログラムがバーチャルシネマDSPモードに変更され、メインスピーカー(L,R)によってバーチャルシネマDSPが再生されます。

### メモ

以下の場合にはセットメニュー「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されていてもバーチャルシネマDSPにはなりません。

- 5CH STEREO、PRO LOGIC/NORMAL、DOLBY DIGITAL/NORMAL、DTS/NORMAL音場プログラムを選択している時
- EFFECTがOFFの時
- 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している時
- デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの時
- ドルビーデジタルKARAOKEソースを再生している時
- テストトーンを使用している時
- ヘッドホンを接続しているとき(ヘッドホンからはサイレントシアターが再生されます)

### サイレントシアター

ヘッドホンで全ての音場プログラムをお楽しみいただけます。実際にスピーカーを設置してあるかのような迫力のあるサラウンド再生を堪能できます。

EFFECTキーを押してエフェクトスピーカーがオンになっている時に、ヘッドホンをPHONES端子に接続すると、サイレントシアターを聴くことができます。(エフェクトスピーカーがオフの状態では通常のステレオ再生になります。)

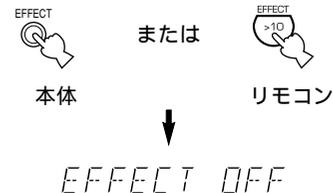
### メモ

以下の場合には音場効果がオン(エフェクトスピーカーがオン)に設定されていてもサイレントシアターにはなりません。

- デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの時

## 通常のステレオ再生

EFFECTキーを押して「EFFECT OFF」にすると、通常のステレオ再生になります。EFFECTキーをもう一度押すと音場効果がONになります。



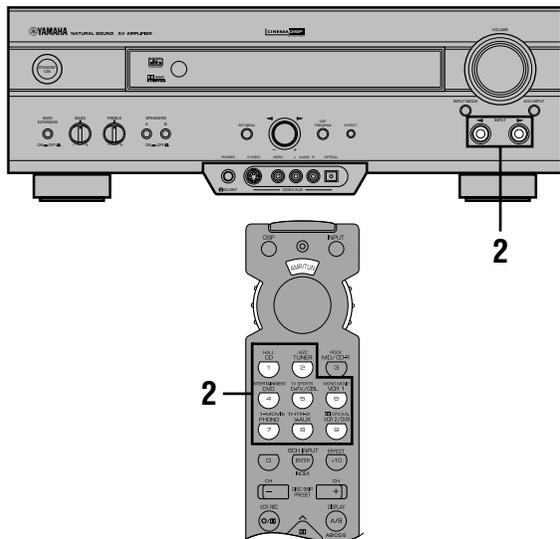
操作ダイヤルをDSP/TUN以外のポジションにしているときは、初めにリモコンのDSPキーを押し、次にEFFECTキーを押してください。

### メモ

EFFECT OFFの時は、センターおよびリアスピーカーから音は出ません。ドルビーデジタル、DTS再生時にEFFECT OFFにすると、ダイナミックレンジが圧縮され、またセンターおよびリアチャンネルの信号はメインスピーカーL、Rから出力されます。ドルビーデジタルソフトによっては、セットメニュー「D-RANGE(6 DOLBY D. SET)」をMINに設定した時や、EFFECT OFF時に音量が極端に下がる場合があります。このような場合は音場効果をONにしてご使用ください。

# 録音と録画

録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。



**1** 本機および再生する機器の電源を入れます。

**2** 録音 / 録画したいソースを選びます。



**3** ソースを再生します(または放送局を選局します)。

**4** 録音 / 録画を開始します。

## メモ

実際の録音 / 録画をする場合、事前に「試し録音」「試し録画」を行ってください。

本機の電源を切ると、接続した機器間の録音 / 録画は行えません。

トーンコントロール(BASS、TREBLE)、BASS EXTENSIONスイッチ、VOLUMEコントロール、セットメニュー「2 L/R BALANCE」、音場プログラムなどを操作しても、録音 / 録画には影響しません。

6CH INPUT端子から入力された信号は録音できません。

S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子どうしのみ、コンポジット端子からの録画はコンポジット端子どうしのみ有効です。

入力ソースと同一のREC OUTには出力されません。(たとえば、VCR1の信号はVCR1のREC OUTには出力されません。)

あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。

## ■ DTSソフトの録音について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されます。DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されません。DTS対応ディスクの信号を録音するために次の事項に注意し、必要な設定を行ってください。

DTS DVDおよびCDの場合、2チャンネルアナログオーディオ信号として録音します。お使いのプレーヤーが対応する場合はプレーヤーの取扱説明書に従って、プレーヤーからアナログ信号が出力するように設定してください。

## ■ タイマー再生 / 録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せて参照してください。

## メモ

タイマー再生 / 録音時には、本機のメモリーに記憶された内容(選択ソース等)が反映されます。タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。

タイマー使用時のメモリーバックアップについて本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)選択していたソース、音量レベルおよびセットメニュー等の設定内容はメモリーされています。しかしタイマー-OFFの状態が1週間以上続くとこのメモリー内容は消去されます。



**4** くまたは > キーを一度押して、選択したメニューのセットアップモードに入ります。  
現在の設定がモニター画面と本体ディスプレイに表示されます。

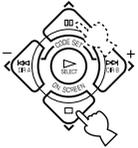


**4A CMPNT-V INPUT**  
→ [A] ..... DVD  
[B] ..... D-TV/CBL



本体で操作する場合は、選択 / 設定ツマミ (< / >) を左右どちらかに1つまわすと、選択したメニューのセットアップモードに入ります。

項目によっては ^ または v キーを押して、サブメニューを選びます。

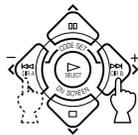


**4B OPTICAL OUT**  
→ (1) ..... MD/CD-R



本体で操作する場合は、SET MENUキーを押します。

**5** くまたは > キーを繰り返し押し、設定を変えます。

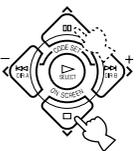


**4A CMPNT-V INPUT**  
→ [A] ..... VCR 1  
[B] ..... D-TV/CBL



本体で操作する場合は、選択 / 設定ツマミ (< / >) を回して設定を変えます。

**6** セットメニューを終了するとき、音場プログラム表示になるまで ^ または v キーを繰り返し押すか、プログラムキーのどれかを押します。



または

1	2	3
4	5	6
7	8	9



本体で操作する場合は、音場プログラム表示になるまで SET MENUキーを繰り返し押します。

**メモリーバックアップについて**

本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

スピーカー セット  
**1 SPEAKER SET**  
(スピーカーモードの設定)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。

**メモ**

デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの場合は、1B、1D、1Eのみ設定が可能です。(1A、1Cの設定は適応されません。)

6CH INPUT端子から入力した信号には、1A～1Eのスピーカーモードの設定は適応されません。

センター スピーカー  
**1A CENTER SP**  
(センタースピーカーモード)

センタースピーカーを追加することによって、画像と音声により一体感が出ます。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。

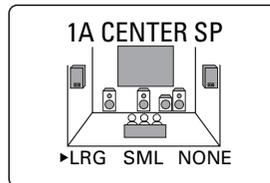
モニター画面には、センタースピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

初期設定: LRG

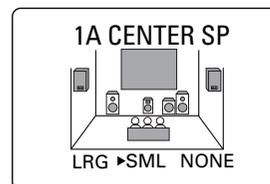
ラージ  
LRG (LARGE)

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。



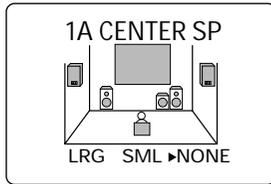
スモール  
SML (SMALL)

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。



<sup>ノン</sup>  
NONE

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインスピーカーL、Rに同じレベルで振り分けられます。



<sup>メイン スピーカー</sup>  
■ 1B MAIN SP (メインスピーカーモード)

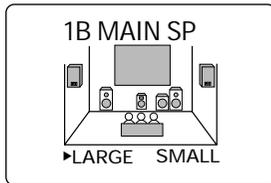
モニター画面には、メインスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するメインスピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL)を選択します。

初期設定:LARGE

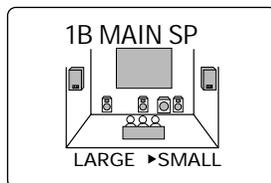
<sup>ラージ</sup>  
LARGE

メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインスピーカーL、Rに出力されます。



<sup>スモール</sup>  
SMALL

メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



メモ

SMALL設定時でも、「1D LFE/BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

<sup>リア エルアール スピーカー</sup>  
■ 1C REAR L/R SP  
(リアL、Rスピーカーモード)

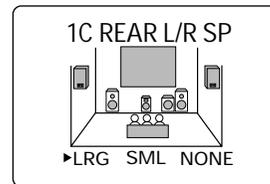
モニター画面には、リアスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するリアスピーカーL、Rに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

初期設定:LRG

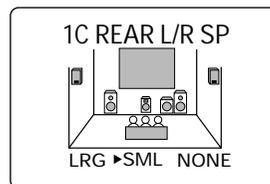
<sup>ラージ</sup>  
LRG (LARGE)

リアスピーカーL、Rに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーL、Rにリア側サブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。



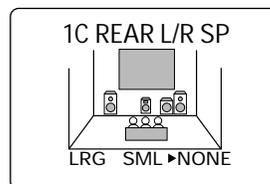
<sup>スモール</sup>  
SML (SMALL)

リアスピーカーL、Rに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



<sup>ノン</sup>  
NONE

リアスピーカーL、Rを使用しないときのモードです。



「1C REAR L/R SP」をNONEに設定するとバーチャルシネマDSPモードになります。

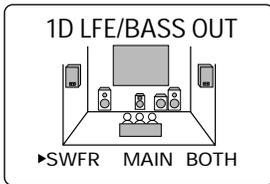
エルエフイー バス アウト  
**■ 1D LFE/BASS OUT (バスアウトモード)**

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。  
 (LFE信号:ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低  
 域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

初期設定: BOTH

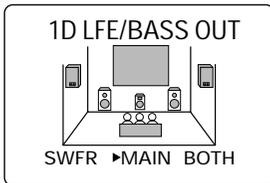
サブウーファー  
 SWFR (SUBWOOFER)

サブウーファーを使用する場合のモードです。  
 LFEと、1A～1Cの設定により他チャンネルの90Hz以下  
 の低音域が、サブウーファーに出力されます。



メイン  
 MAIN

サブウーファーを使用しない場合のモードです。  
 LFEと、1A～1Cの設定により他チャンネルの90Hz以下  
 の低音域が、メインスピーカー L、Rに出力されます。



ボース  
 BOTH

サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモード  
 の設定に関わりなく、メインスピーカー L、Rの90Hz以下  
 の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードで  
 す。メインスピーカー L、Rの低音域がメインスピーカー L、  
 Rとサブウーファーの両方に出力されます。(2チャンネル  
 再生・ドルビーサラウンド再生時にサブウーファーを鳴ら  
 すことができます。)



メモ

1A～1Cの設定をスモールにすると、スモールに設定し  
 たチャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEに加わってサ  
 ブウーファーに出力されます。

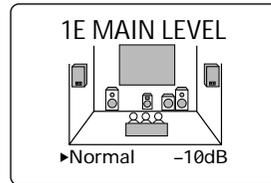
メイン レベル  
**■ 1E MAIN LEVEL (メインレベルモード)**

メインスピーカーの出力レベルを設定します。メインス  
 ピーカーが極端に高効率であるため、センタースピーカ  
 やリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わ  
 ない場合には、メインレベルを下げるができます。

初期設定: Normal

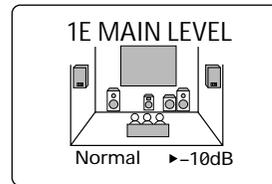
ノーマル  
 Normal

通常はこの設定にします。



デシベル  
 - 10 dB

メインレベルを - 10dB(約1/3)にします。センタース  
 ピーカーやリアスピーカーの出力レベルがメインスピー  
 カーに合わない場合はこの設定にします。



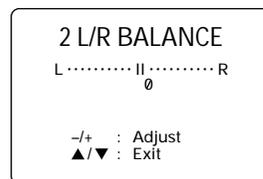
エルアール バランス  
**2 L/R BALANCE (メインスピーカーバランス)**

メインスピーカーL、Rの音量バランスを設定します。

可変範囲: L10～R10

初期設定: 0

> キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音  
 が小さくなり、< キーを押すと右(R)のメイン  
 スピーカーの音が小さくなります。



メモ

音量バランスの設定は、ヘッドホン使用時にも適用され  
 ます。

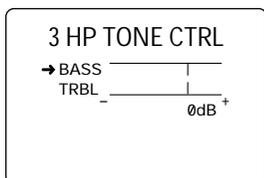
### 3 HP TONE CTRL (ヘッドホントーンコントロール)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲(dB): -6 ~ +3

初期設定:(低音域、高音域ともに)0dB

＞キーを押すと低音域もしくは高音域が大きくなります。＜キーを押すと小さくなります。



### 4 I/O ASSIGNMENT (入出力端子名の変更)

アイオー アサインメント

使用する機器と本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やDIGITAL INPUT/OUTPUT端子の設定(端子の機器名)が異なる場合は、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。また、使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合など、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を有効に接続することができます。この設定により、変更後の機器をインプットセレクターで選べるようになります。

#### 4A CMPNT-V INPUT (COMPONENT VIDEO端子)

コンポーネント ビデオ

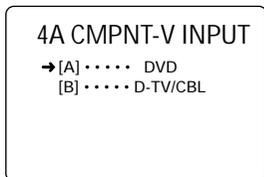
選択項目:

[A] DVD、V-AUX、VCR 2/DVR、VCR 1、D-TV/CBL

[B] V-AUX、VCR 2/DVR、VCR 1、D-TV/CBL、DVD

初期設定: [A] DVD

[B] D-TV/CBL



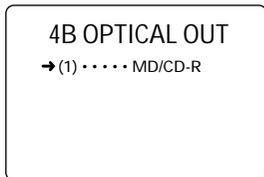
#### 4B OPTICAL OUT (OPTICAL OUTPUT端子)

オプティカル アウトプット

選択項目:

(1) VCR 1、D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R、TUNER、CD、PHONO、V-AUX、VCR 2/DVR

初期設定:(1)MD/CD-R



#### 4C OPTICAL IN (OPTICAL INPUT端子)

オプティカル インプット

選択項目:

(2) MD/CD-R、TUNER、CD、PHONO、VCR 2/DVR、VCR 1、D-TV/CBL、DVD

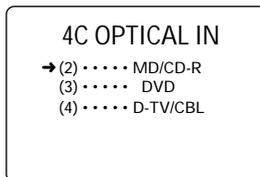
(3) CD、PHONO、VCR 2/DVR、VCR 1、D-TV/CBL、DVD、TUNER、MD/CD-R

(4) D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R、TUNER、CD、PHONO、VCR 2/DVR、VCR 1

初期設定:(2)MD/CD-R

(3)DVD

(4)D-TV/CBL



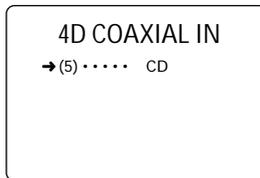
#### 4D COAXIAL IN (COAXIAL INPUT端子)

コアキシャル インプット

選択項目:

(5) CD、PHONO、V-AUX、VCR 2/DVR、VCR 1、D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R、TUNER

初期設定:(5)CD



#### メモ

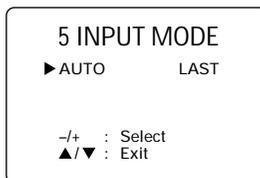
それぞれの項目(4A~4D)の中では、同一の端子名をアサインすることはできません。

### 5 INPUT MODE (電源投入時入力モード)

インプット モード

同一の再生機器を2種類以上の入力端子に接続している場合の、電源を入れたときの入力モードを設定します。

初期設定:AUTO



オート  
AUTO

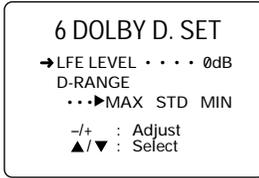
電源を入れると入力モードはAUTOに設定されます。

ラスト  
LAST

入力モードの最後の設定がメモリーされ、電源を入れると同じ設定になります。

## 6 DOLBY D. SET (ドルビーデジタルセット)

この設定はドルビーデジタル再生時のみ有効です。



エルエフイー

### ■ LFE LEVEL (LFEレベル)

ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、ドルビーデジタルにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲 (dB): - 20 ~ 0

初期設定: 0dB

- > キーを押すとLFEレベルが大きくなります。
- < キーを押すと小さくなります。

#### メモ

使用するサブウーファーの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。  
 通常、ご家庭でのご使用では - 6 ~ - 8dBに調節してください。

### ■ D-RANGE (ダイナミックレンジ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)を、MAX、STDまたはMINの3種類から設定します。

初期設定: MAX

マックス  
MAX

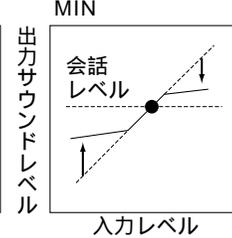
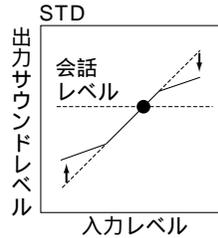
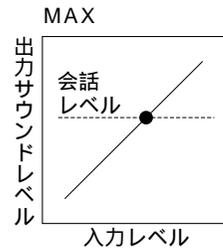
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

スタンダード  
STD (STANDARD)

ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

ミニマム  
MIN

小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



#### メモ

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

ディーティーエスセット

## 7 DTS SET (DTS LFEレベル)

この設定はDTS再生時のみ有効です。

DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、DTSソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲 (dB): - 10 ~ + 10

初期設定: 0dB

- > キーを押すとLFEレベルが大きくなります。
- < キーを押すと小さくなります。



#### メモ

使用するサブウーファーの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

## 8 SP DELAY TIME (スピーカーディレイタイム)

センタースピーカーのディレイタイムを設定します。ドルビーデジタルまたはDTS再生時に有効です。

通常センタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、本来ならば同時に出了音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、等価的にリスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

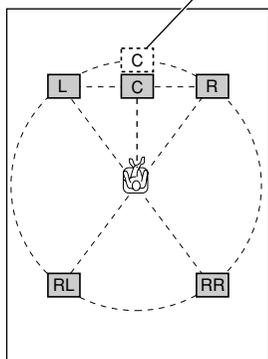
可変範囲 (ms) : 0 ~ 5

初期設定: 0ms

> キーを押すとセンタースピーカーの仮想的な位置が遠くなります。

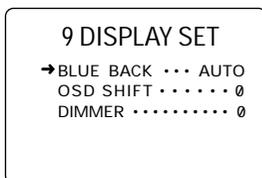


仮想センタースピーカー位置



目安として1ms増すと実際のスピーカーの設置位置から約30cm遠ざかったことになります。

## 9 DISPLAY SET (ディスプレイセット)



## ■ BLUE BACK (ブルー画面設定)

オンスクリーン表示の設定です。AUTOにすると、ビデオ信号の入力が無いときに、画面をブルーバックにできます。OFFにすると画面にはオンスクリーン表示も含めて何も表示されません。

初期設定: AUTO

## ■ OSD SHIFT (オンスクリーンディスプレイ オフセット位置)

オンスクリーン表示位置を上下に調整できます。

可変範囲: +5(下方) ~ -5(上方)

初期設定: 0

> キーを押すと表示位置を下方に調整できます。< キーを押すと上方に調整できます。

## ■ DIMMER (デイマー)

本体ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲: - 4 ~ 0

初期設定: 0

< キーを押すと本体ディスプレイが暗くなります。

## 10 MEMORY GUARD (メモリーガード)

設定したパラメーターやレベルなどを保護します。

初期設定: OFF



ONで保護される設定

音場プログラムのパラメーター設定値  
MEMORY GUARD以外のセットメニュー  
センター、リア、サブウーファアのレベル  
オンスクリーン表示の設定

### メモ

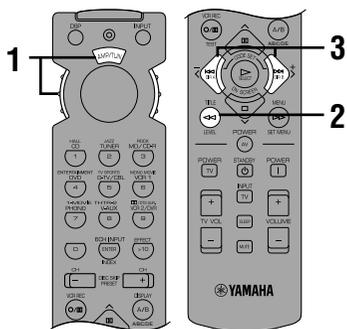
「10 MEMORY GUARD」をONに設定すると、テストモードに入れません。

「10 MEMORY GUARD」をONに設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。

# エフェクトスピーカーのレベル調節

お好みに応じてソースの再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー(センター、リアR、リアL、サブウーファー)のスピーカーレベル調節が行えます。

調節はリモコンで行います。

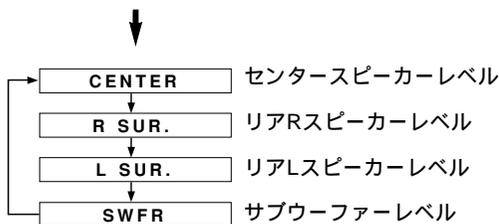


**1** 操作ダイヤルをAMP/TUN (またはDSP/TUN)のポジションにします。

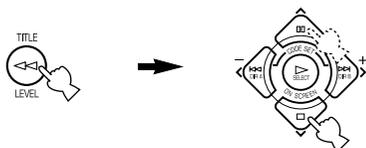


**2** LEVELキーを押して調節するスピーカーを選びます。

LEVELキーを押すごとに、センター リアR リアL サブウーファー センターの順で本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



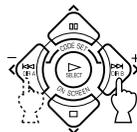
LEVELキーでレベル表示にすると、∨キーでもスピーカーを選択することができます。(∧キーを押すと逆方向に選択できます。)



**3** <または>キーを押して、スピーカーレベルを調節します。

センターおよびリアL、Rスピーカーの調節範囲は、+10 ~ -10dBです。

サブウーファーの調節範囲は、-20 ~ 0dBです。



## メモ

スピーカーモードがNONEに設定されている場合、そのスピーカーのレベル調節はできません。LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベルも変更されます。サブウーファー以外のスピーカーの調節はP.19「テストトーンによる調節」をお勧めします。

## メモリーバックアップについて

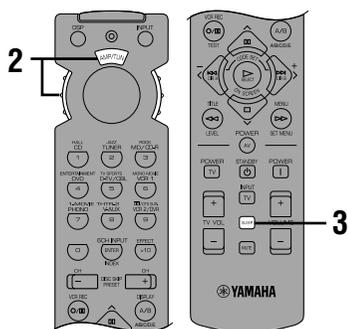
本機の電源を切っても、調節したレベルは消えずに記憶(メモリー)されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してメモリーが消えてしまったときは、1~3の手順でレベルを再調節してください。

# スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源がスタンバイモードになるので、聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになれます。スリープタイマーは本機のAC OUTLETS SWITCHED(電源供給コンセント)に接続した機器(ソース)の電源も切ります。

スリープタイマーの設定はリモコンで行います。

## スリープタイマーの設定



**1** ソースを選択して再生します。

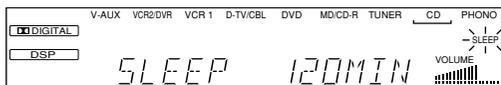
**2** 操作ダイヤルをTVポジション以外の位置にします。



**3** SLEEPキーを押して電源が切れるまでの時間を設定します。

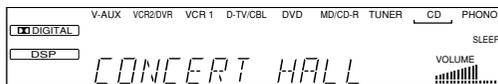


SLEEPキーを押すごとに次のように切り替わります。



**4** スリープタイマーが設定されるとSLEEPインジケータが点灯します。

ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。



## スリープタイマーを解除する

“SLEEP OFF”の表示が出るまでSLEEPキーを繰り返し押します。

しばらくすると“SLEEP OFF”は消え、SLEEPインジケータも消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。



SLEEP OFF



リモコンのSTANDBYキー(または本体のSTANDBY/ONスイッチ)を押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除できます。

# リモコンで操作する

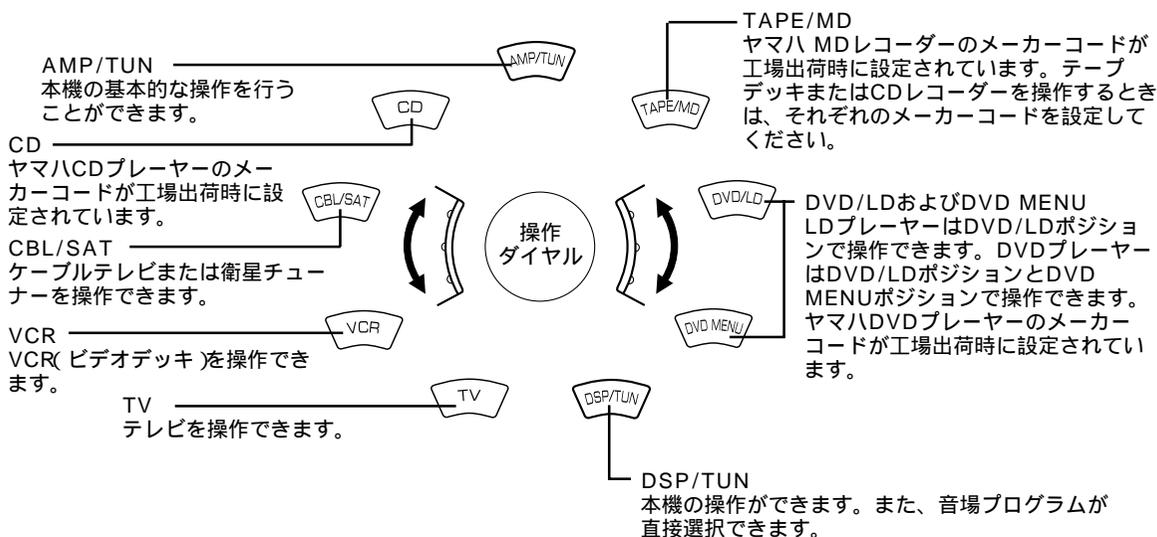
本機に付属のリモコンで本機および本機以外のいくつかのヤマハAV機器を操作できます。また各メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定することにより、他社のいくつかの機器(またはヤマハのいくつかの機器)を操作することもできます。

## メモ

リモコンの乾電池と操作範囲、各部の名称とはたらきについてはP.4およびP.5「リモコン」,「リモコンの電池の入れ方」,「リモコンの使用範囲」を参照してください。

## 操作ダイヤル

リモコンで操作したい機器を選択します。例えば、CDポジションを選択すると、リモコンはCD操作モードに設定されて、CDプレーヤーを操作できます。操作ダイヤルを回すと、ポジションは次のように切り換わります。



## メモ

リモコンの一般的な操作キーは、操作ダイヤルのポジションに応じて異なります。詳しくは次ページ以降を参照してください。

工場出荷時には各ダイヤルポジションごとにP.43に記載したヤマハのメーカーコードが設定されています。お手持ちのヤマハAV機器を操作できないときには、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

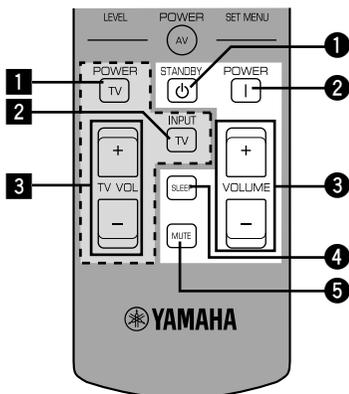
本リモコンは全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵していませんので、お手持ちのAV機器が操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも動作しないときはオリジナルのリモコンをお使いください。

## 操作ダイヤルがどのポジションになっても共通に使われるキー

操作ダイヤルのポジションに関係なく、本機およびテレビを次のキーで操作できます。

### メモ

テレビの操作を行う前に、TVポジションで、ご使用になるテレビのメーカーコードを設定してください。



### ■ 本機の操作

P.4の「リモコン」を参照してください。

- スタンバイ
- ① STANDBY
- パワー
- ② POWER
- ボリューム
- ③ VOLUME +/-
- スリープ
- ④ SLEEP



テレビのメーカーコードを設定してある場合は、操作ダイヤルをTVポジションに合わせると、このキーをテレビのスリープタイマーの設定に使用できます。

- ミュート
- ⑤ MUTE



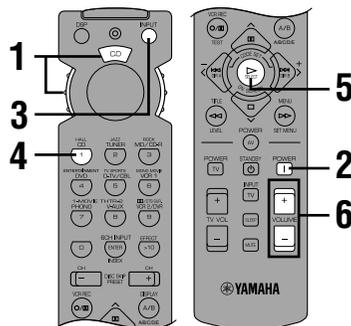
テレビのメーカーコードを設定してある場合は、操作ダイヤルをTVポジションに合わせると、このキーをテレビの消音(ミュート)に使用できます。

### ■ テレビの操作

- テレビ パワー
- ① TV POWER (電源を入れます)
- テレビ インプット
- ② TV INPUT (入力を切り換えます)
- テレビ ボリューム
- ③ TV VOLUME +/- (音量を調節します)

## 接続機器の操作方法

例として、ヤマハCDプレーヤーの操作について説明します。



- ① 操作ダイヤルをCDポジションにします。
- ② POWERキーを押して、電源を入れます。
- ③ INPUTキーを押します。インジケーターが約3秒間点灯します。
- ④ インジケーターが点灯している間に、CDキーを押します。
- ⑤ ▷ キー(再生)を押します。CDプレーヤーの操作キーについては、P.39「CDポジション」を参照してください。
- ⑥ VOLUME +/- キーで音量を調節してお聴きください。

リモコンに、この取扱説明書の最後に記載してあるメーカーコードを設定すれば、他社の機器をリモコンで操作することができます。設定のしかたは、P.42「メーカーコードの設定」を参照してください。

## 操作ダイヤルの各ポジションと使い方

### ■ TAPE/MDポジション (テープデッキ、MDレコーダーまたはCDレコーダー)

TAPE/MDポジションを選択します。

○/⏏ 録音/一時停止 (テープ/MD)  
 ⏏ 一時停止 (MD/CD-R)  
 ⏪ DIR A  
 デッキAの再生方向を選択します。  
 スキップ-(MD/CD-R)  
 ⏩ 巻き戻し(テープ)  
 サーチ(MD/CD-R)

数字キー (MD/CD-R)  
 INDEX (CD-R)  
 +10キー (MD/CD-R)  
 デッキA/B (テープ)  
 ダブルカセットテープデッキの、デッキAとBのいずれかを選択します。  
 DISPLAY (MD/CD-R)  
 ⏩ DIR B (テープ)  
 デッキBの再生方向を選択します。  
 スキップ+(MD/CD-R)  
 □ 停止  
 ⏩ 早送り(テープ)  
 サーチ (MD/CD-R)

AV POWERキー  
 他社のメーカーコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオンできるリモコンを持ったテープデッキ、MDレコーダーまたはCDレコーダーであれば電源が入ります。

### ■ CDポジション

CDポジションを選択します。

DISC SKIP -/+  
 (CDチェンジャー付きのCDプレーヤー用)  
 ▷ 再生  
 ⏪ スキップ -  
 ⏩ サーチ

数字キー  
 INDEX  
 +10キー  
 DISPLAY  
 ⏏ 一時停止  
 ヤマハCDプレーヤー(工場出荷時の設定):  
 一時停止/停止  
 ▷ スキップ +  
 □ 停止  
 ヤマハCDプレーヤー(工場出荷時の設定):  
 一時停止/停止  
 ▷ サーチ  
 AV POWERキー  
 他社のメーカーコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオンできるリモコンを持ったCDプレーヤーであれば電源が入ります。

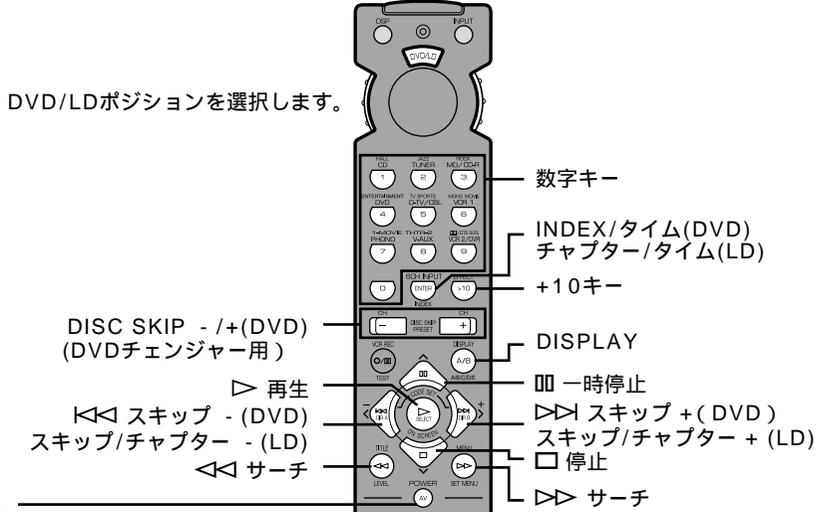
💡 ⏏ と □ キーについて  
 ヤマハのCDプレーヤー(工場出荷時)の場合は ⏏ または □ キーを一度押すと、一時停止となります。もう一度押すと停止となります。

応用操作

濃い灰色で図示したキーは、他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。  
 お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

■ DVD/LDポジション

DVD/LDポジションを選択します。



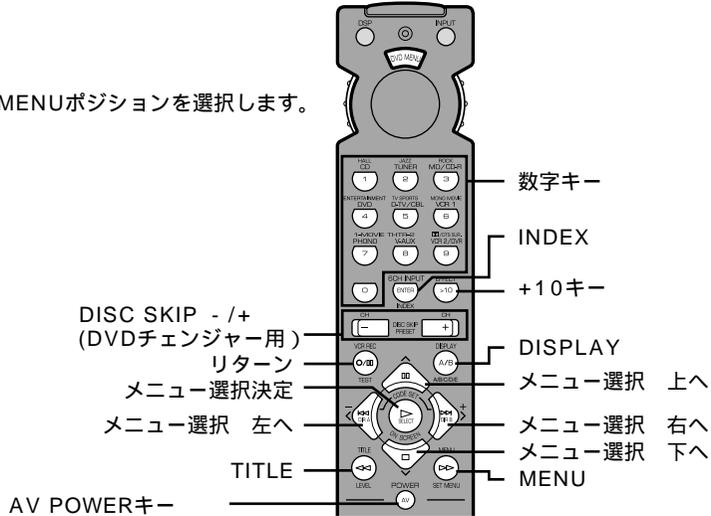
AV POWERキー  
 (DVD) 他社のメーカーコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオンできるリモコンを持ったDVDプレーヤーであれば電源が入ります。  
 (LD) 他社のメーカーコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオンできるリモコンを持ったLDプレーヤーであれば電源が入ります。

■ DVD MENUポジション

メモ

DVDプレーヤーによっては、DVD メニューの操作ができないものもあります。

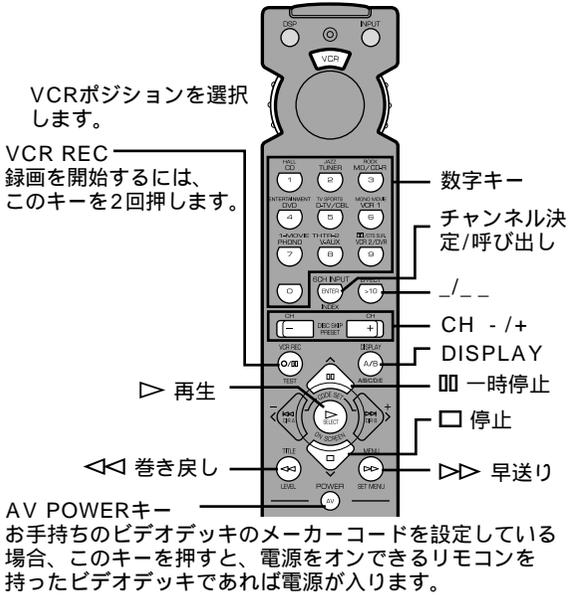
DVD MENUポジションを選択します。



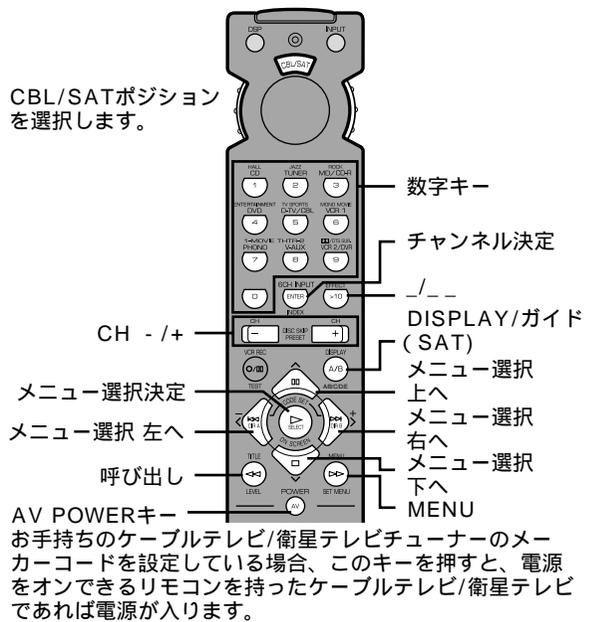
AV POWERキー  
 (DVD) 他社のメーカーコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオンできるリモコンを持ったDVDプレーヤーであれば電源が入ります。

濃い灰色で図示したキーは、他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。  
 お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## ■ VCRポジション



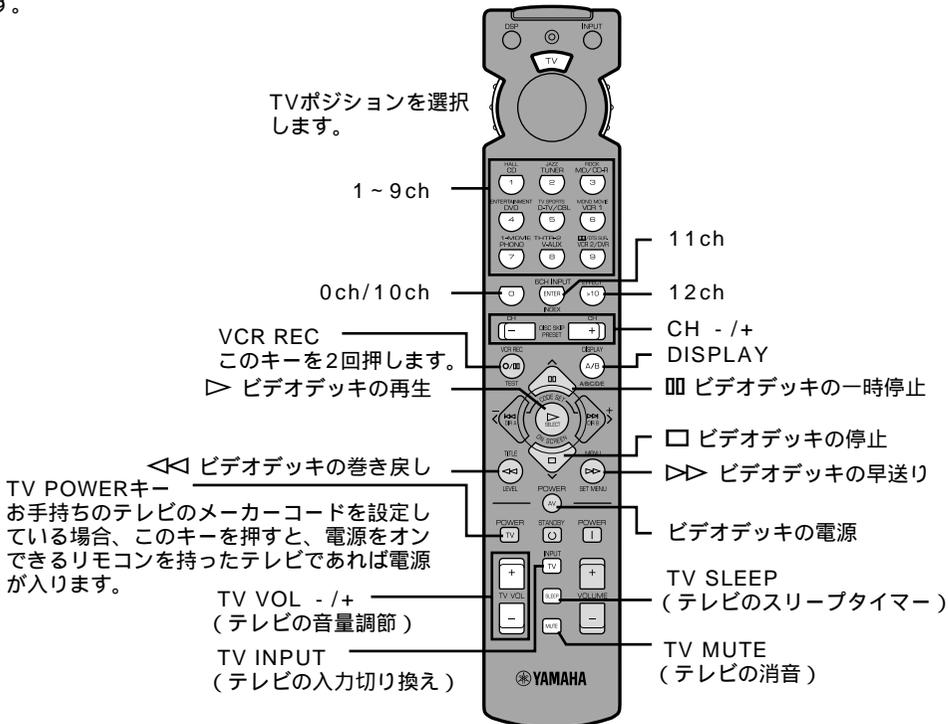
## ■ CBL/SATポジション



## ■ TVポジション

### メモ

VCRポジションにビデオデッキのメーカーコードを設定している場合、このポジションでビデオデッキを操作できます。



濃い灰色で図示したキーは、他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。

お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## メーカーコードの設定

操作ダイヤルの各ポジションごとに、お手持ちの機器のメーカーコードを設定できます。

各AV機器のメーカーコードについてはP.59およびP.60「メーカーコード一覧表」を参照してください。

**1** お使いになりたい機器の電源を入れます。

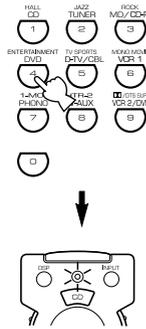
**2** 操作ダイヤルを、お使いになる機器のポジション (TAPE/MD、CD、DVD/LDなど) に合わせます。



**3** <および> キーを同時に、約4秒間押します。インジケータが2回点滅します。



**4** 数字キーで、お使いになる機器の4桁のメーカーコードを入力します。(キーを押すごとにインジケータが点灯することを確認してください。)インジケータが2回点滅することを確認してください。インジケータが点滅しないとき、または急速に数回点滅した場合は、手順3をもう一度行ってメーカーコードを再入力してください。



**5** メーカーコードが正しく設定されているかどうか確認するために、AV POWERキー(または他の操作キー)を押します。機器をリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの別のメーカーコードを設定してみてください。



### メモ

1つのポジションには1つのメーカーコードしか設定できません。

DVD/LDおよびDVD MENUのポジションでは：操作ダイヤルをDVD MENUポジションに合わせても、DVDプレーヤーのメーカーコードは設定できません。DVDプレーヤーまたはLDプレーヤーのメーカーコードを入力する場合は、操作ダイヤルを必ずDVD/LDポジションに合わせてください。DVD/LDポジションで設定されたメーカーコードは同時にDVD MENUポジションにも設定されます。

本リモコンは全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵していませんので、お手持ちのAV機器が操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも動作しないときはオリジナルのリモコンをお使いください。

## ■ 2台目(3台目)のビデオデッキを使用するには

ケーブルテレビ/衛星テレビのチューナーまたはDVDプレーヤーが使われていないときは、CBL/SATおよびDVD MENUポジションで2台目(3台目)のビデオデッキを操作できます。

### メモ

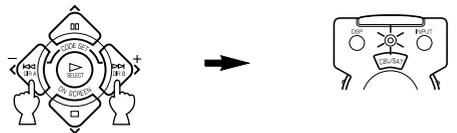
DVD MENUポジションで2台目(3台目)のビデオデッキを設定するには、あらかじめDVD/LDポジションにLDプレーヤーのメーカーコードを設定しておく必要があります。

**1** お使いになるビデオデッキの電源を入れます。

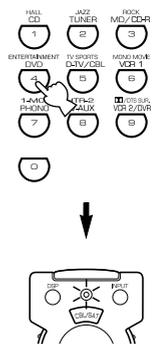
**2** 操作ダイヤルをCBL/SATまたはDVD MENUポジションに合わせます。



**3** <および> キーを同時に、約4秒間押します。インジケータが2回点滅します。



**4** 数字キーで、2台目(3台目)のビデオデッキの、4桁のメーカーコードを入力します。(キーを押すごとにインジケータが点灯することを確認してください。)インジケータが2回点滅することを確認してください。インジケータが点滅しないか、または急速に数回点滅した場合は、手順3をもう一度行ってメーカーコードを再入力してください。



**5** メーカーコードが正しく設定されているかどうか確認するために、AV POWERキー(または他の操作キー)を押してください。ビデオデッキをリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの別のメーカーコードを設定してみてください。



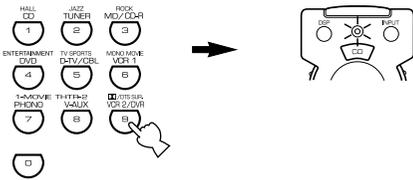
## 工場出荷時の設定に戻すには

### ■ すべてのポジションを工場出荷時のメーカーコードに戻す

- 1** くおよび>キーを同時に、約4秒間押します。インジケーターが2回点滅します。

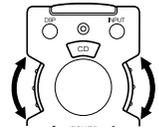


- 2** コード“ 9990 ”を入力します。インジケーターが2回点滅するのを確認します。

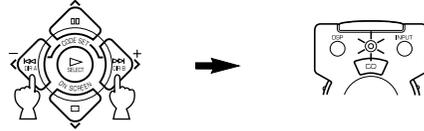


### ■ 各ポジションを工場出荷時のメーカーコードに戻す

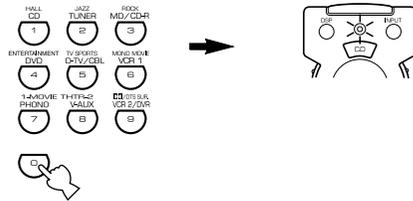
- 1** 操作ダイヤルを、工場出荷時の設定に戻したいポジションに合わせます。



- 2** くおよび>キーを同時に、約4秒間押します。インジケーターが2回点滅します。



- 3** コード“ 0000 ”を入力します。インジケーターが2回点滅するのを確認します。



工場出荷時には下記のメーカーコードが設定されています

操作ダイヤルのポジション	機器	メーカーコード	設定した機器	設定したメーカーコード
TV	TV	0101		
CBL/SAT	ケーブルTVチューナー	0006		
VCR	ビデオデッキ	0002		
DVD/LD	DVDプレーヤー	0008(ヤマハDVDプレーヤー)		
CD	CDプレーヤー	0005(ヤマハCDプレーヤー)		
TAPE/MD	MDレコーダー	0024(ヤマハMDレコーダー)		

設定したメーカーコードを上表に書き留めておくことをお勧めします。

# 音場プログラム

本機にはヤマハの最新技術によるデジタル音場プロセッサー(DSP)が搭載されています。お聴きになるソースに合わせて、様々な音場を再現することができます。

## メモ

下記のプログラム名や特長にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

ハイファイ

## Hi-Fi DSPプログラム

### ■ オーディオ用：No.1～No.4

No.	プログラム(グループ)	サブプログラム	特長
1	コンサート ホール CONCERT HALL	-	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊かな響きが特長です。
2	ジャズ クラブ JAZZ CLUB	-	ニューヨークで話題のライブハウス“ザ・ボトムライン”のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
3	ロック コンサート ROCK CONCERT	-	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
4	エンターテインメント ENTERTAINMENT	ディスコ DISCO	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
		チャンネル ステレオ 5CH STEREO	広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

## メモ

メインスピーカーL、Rからは入力されたままのステレオ音声と音場を再現するための反射音(効果音)が出力されます。センタースピーカーからは音が出ません。(ドルビーデジタルまたはDTS入力時にこれらのプログラムを選択した場合は出力されます。また、5CH STEREO選択時には入力ソースに関わらず設定した全てのスピーカーから出力されません。)

## シネマDSPプログラム

### ■ ビデオ用：No. 4～No. 6

No.	プログラム(グループ)	サブプログラム	特長
4	エンターテインメント ENTERTAINMENT	ゲーム GAME	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
5	テレビ スポーツ TV SPORTS	-	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
6	モノ ムービー MONO MOVIE	-	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が登場感を持って再生されます。

## ■ 映画用 : No. 7 ~ No. 9

No.	プログラム (グループ)	サブプログラム		入力ソース	特長	
7	MOVIE シアター THEATER 1	SPECTACLE	70 mm SPECTACLE	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。	
			DGTL SPECTACLE	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS SPECTACLE	DTS		
		SCI-FI	70 mm SCI-FI	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)		最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンスフィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
			DGTL SCI-FI	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS SCI-FI	DTS		
8	MOVIE シアター THEATER 2	ADVENTURE	70 mm ADVENTURE	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。	
			DGTL ADVENTURE	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS ADVENTURE	DTS		
		GENERAL	70 mm GENERAL	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)		70mm/ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
			DGTL GENERAL	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS GENERAL	DTS		
9	DOLBY/DTS サラウンド SURROUND	NORMAL	PRO LOGIC/ NORMAL	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)	ドルビーサラウンド プロロジック/ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。このプログラムでは、デジタル音場プロセッサは作動しません。	
			DOLBY DIGITAL/ NORMAL	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS DIGITAL SUR./ NORMAL	DTS		
		ENHANCED	PRO LOGIC/ ENHANCED	アナログ、PCM、 ドルビーデジタル (2チャンネル)		ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なもののヘシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
			DOLBY DIGITAL/ ENHANCED	ドルビーデジタル (5.1チャンネル)		
			DTS DIGITAL SUR./ ENHANCED	DTS		

## メモ

DOLBY/DTS SURROUNDのサブプログラム“NORMAL”を選択している場合は、“ DSP”インジケータは点灯しません。

セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定すると、センタースピーカーから音が出ません。

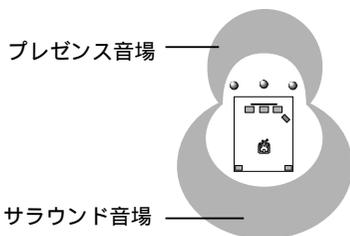
モノラルソースをシネマDSPプログラム4(GAME)および5~8で再生した場合、ソースの音声はセンタースピーカーから出ます。メインスピーカーとリアスピーカーからはシネマDSPの効果音のみが出力されます。

## ■ MOVIE THEATER 1 および2

通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリックス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード・デコード処理によって失われがちな拡がりや感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

マトリックス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりや、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。

入力ソースがアナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)の場合



雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

70mm SPECTACLE

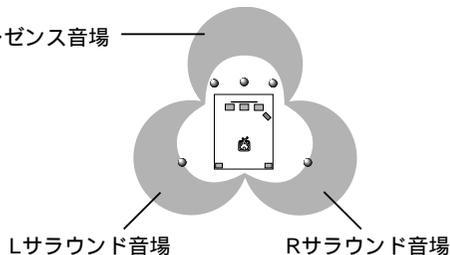
70mm SCI-FI

70mm ADVENTURE

70mm GENERAL

最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

入力ソースがドルビーデジタル(5.1チャンネル)およびDTSの場合



ドルビーデジタルおよびDTSのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

DGTL SPECTACLE

DTS SPECTACLE

DGTL SCI-FI

DTS SCI-FI

DGTL ADVENTURE

DTS ADVENTURE

DGTL GENERAL

DTS GENERAL



入力モードがAUTOに設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場またはDTS再生用音場に切り換わります。

# 音場プログラムパラメーターを変更する

## 音場とは

生の楽器の豊かで優美な音色を実際に作り出すのは、室内の壁から発せられる数多くの反射音です。こうした反射音は音を“生き生き”とさせるだけでなく、演奏者のいるステージや、観客席を含めた演奏会場そのものの規模や形状をも伝えてくれます。

### ■ 音場の構成要素

音場を構成する要素として、楽器がかなでる音が直接伝わってくる直接音と、周囲の物体に反射してくる2種類の反射音があります。

#### 初期反射音

1つの表面のみに(例えば、天井や壁に)反射してから、極めて急速(直接音が発生してから50msから100ms後)にリスナーの耳に到達する反射音です。これらの反射音は特定の環境の場合に固有のパターンに分類されます。初期反射音によって直接音に明瞭さが付加されます。

#### 後部残響音

2つ以上の表面(例えば、壁、天井、部屋の後部)で何度も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになって連続した音響の“余韻”が残ります。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

## 音場プログラムパラメーター

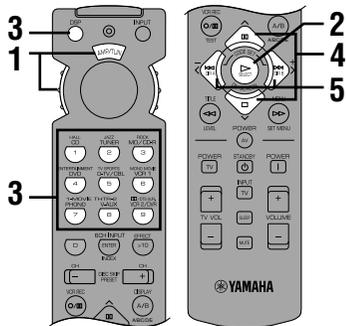
音場プログラムは、演奏会場や劇場の規模、残響時間、リスナーから演奏者までの距離などを判断するためのパラメーターで構成されています。各プログラムは、プログラム固有の音場を作り出すためにヤマハによって正確に計算された数値を用いてこれらのパラメーターが設定されます。パラメーターの数値を変更せずに音場プログラムを使用することをお勧めしますが、本機を使用すれば独自の音場を作り出すこともできます。まずは内蔵プログラムの1つを手始めに、これらのパラメーターを調整してみるとよいでしょう。

各音場プログラムに設定されているパラメーターセットを元にして、お望みの効果を正確に作り出すために音響環境の特性を変更することができます。これらのパラメーターは、実際のコンサートホールをはじめとした演奏会場における音場を再現する数多くの自然音響ファクターに対応しています。例えば、リスニングルームの大きさは初期反射音間の時間の長さに影響します。音場プログラムの多くに設定されている“ROOM SIZE(ルームサイズ)”パラメーターはこれらの反射音間のタイミングを変更し、結果的にリスニングする“ルーム”の形状を変えています。ルームサイズのほかに、リスニングルームの形状や表面の特性も最終的な音に重大な影響を与えます。例えば、音を吸収する表面は反射音や残響音をより速く減衰させます。また、反射性の高い表面は反射音がより長時間持続されます。このようにデジタル音場パラメーターに関するこれらのファクターを調整できますから、リスナーの気分や好みの音楽にぴったり合った自分だけのリスニング環境を再現するために“デザインしなおす”ことができます。

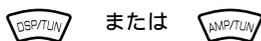
P.49「音場プログラムパラメーターガイド」を参照してください。

## 音場プログラムパラメーター値を変える

音場プログラムは、初期設定パラメーターのままで十分お楽しみいただけますが、各パラメーターを変更することによりソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムをアレンジすることができます。



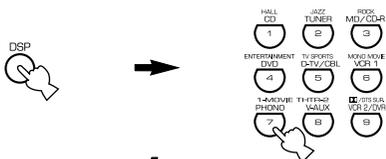
- 1** 操作ダイヤルをDSP/TUN(またはAMP/TUN)のポジションにします。



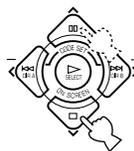
- 2** モニターの電源を入れ、ON SCREENキーを押してフル表示を選択します。



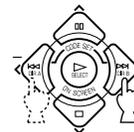
- 3** 音場プログラムを選択します。



- 4** へまたは∨キーを押して、パラメーターを選択します。



- 5** くまたは>キーを押して、パラメーターの設定値を変更します。



初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク(\*)がモニター画面に表示されます。

- 6** 必要に応じて、3～5の手順を繰り返して、他のプログラムのパラメーターを変更します。

### メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、パラメーターの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、パラメーターが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

### 音場プログラムパラメーターを初期設定値に戻すには

パラメーターを選択します。初期設定値で一旦表示が止まるまで、くまたは>キーを押し続けます。モニター画面から、パラメーター名の前のアスタリスク(\*)が消えます。

### メモ

プログラムによっては、有効なパラメーターが1画面に表示しきれない場合があります。へまたは∨キーを押して画面をスクロールしてください。セットメニュー「10 MEMORY GUARD」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する場合は、OFFに設定してください。

## 音場プログラムパラメーターガイド

音場パラメーターを変更してリスニングルームの音場を調節することができます。

## メモ

以下のパラメーターはすべてのプログラムに設定できるわけではありません。

■ INIT.DLY (initial delay)  
プレゼンス イニシャル デイレイ

P.INIT.DLY : プレゼンス音場用

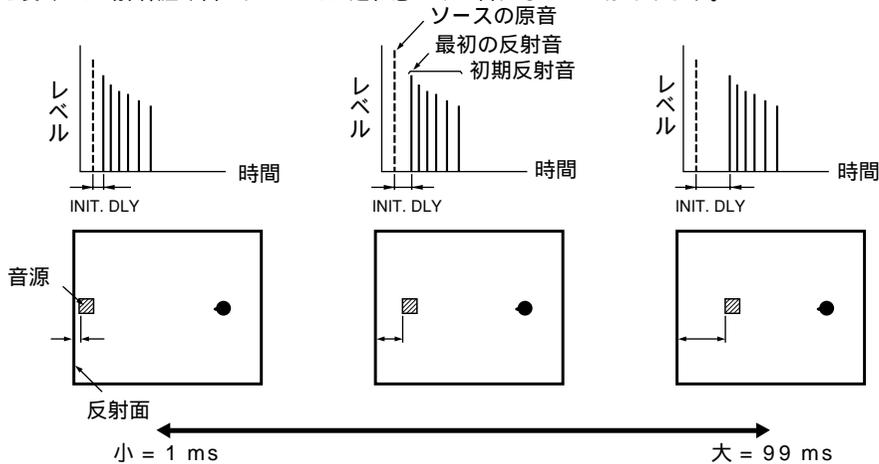
機能： 音源と壁面との距離感を調節。

可変範囲： 1ms ~ 99ms

解説： 直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)をコントロールするパラメーターです。

初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT.DLYを調節することにより、ソースの音源から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできた等がコントロールできます。

遅延時間を長くした場合、組み合わせによっては違和感のある音になることがあります。



■ ROOM SIZE  
プレゼンス ルーム サイズ  
 P.ROOM SIZE : プレゼンス音場用

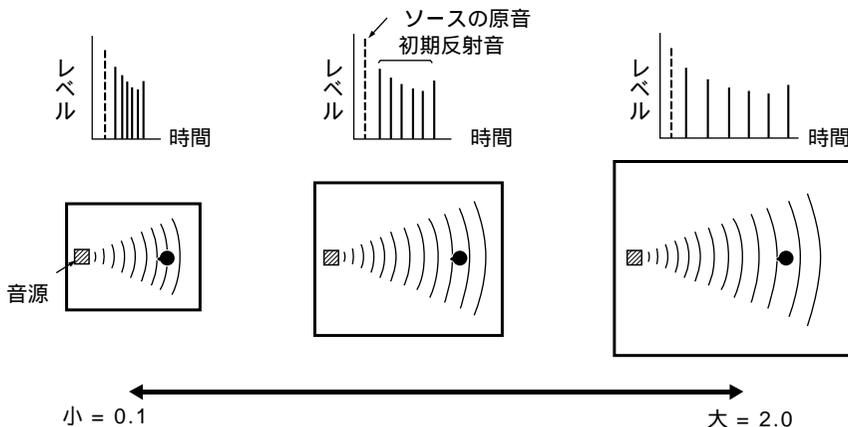
機能： 拡がり感の調節。

可変範囲： 0.1 ~ 2.0

解説： 空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど広い空間になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。

1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。



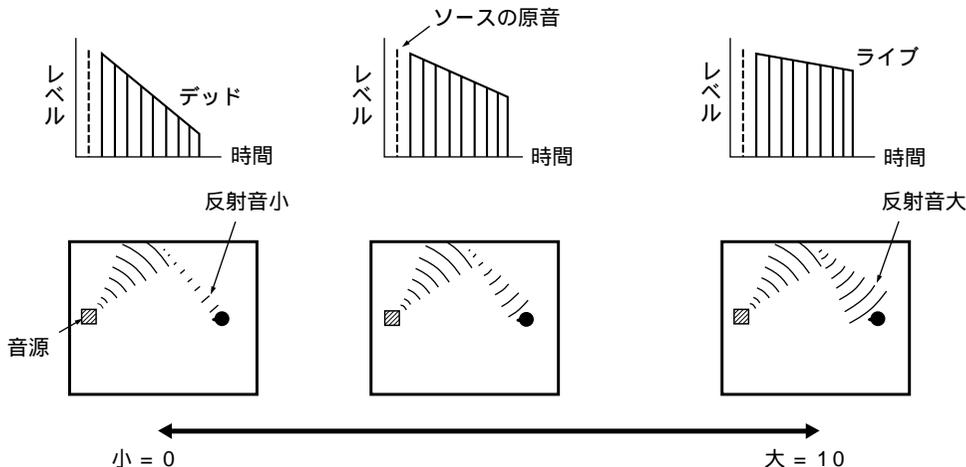
ライブネス

## ■ LIVENESS

機能: 響き具合の調節。

可変範囲: 0 ~ 10

解説: 初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。



サラウンド デレイ

## ■ S.DELAY (surround delay)

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節。

可変範囲: 0ms ~ 49ms(可変範囲は信号によります。)

解説: ドルビーデジタル/DTS入力時:

直接音とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて発生します。

ドルビーデジタル/DTS以外の入力時:

直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。サラウンド音源は存在しません。

サラウンド イニシャル デレイ

## ■ S.INIT.DLY (surround initial delay)

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節。

(「フロント2チャンネル(または3チャンネル)+リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタルおよびDTS入力時のみ有効)

可変範囲: 1ms ~ 49ms

解説: 直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

**■ S.ROOM SIZE (surround room size)**  
サラウンド      ルーム      サイズ

機能: サラウンド音場の拡がり感を調節。

可変範囲: 0.1 ~ 2.0

解説: サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

**■ S.LIVENESS (surround liveness)**  
サラウンド      ライブネス

機能: サラウンド音場の響き具合を調節。

可変範囲: 0 ~ 10

解説: サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

**■ CT.DELAY (center delay)**  
センター      デレイ

機能: 5チャンネルステレオモード時に上記チャンネルの遅延時間を調節するパラメーターです。

可変範囲: 0ms ~ 50ms

**■ LS.DELAY (left surround delay)**  
レフト      サラウンド      デレイ

機能: 5チャンネルステレオモード時に上記チャンネルの遅延時間を調節するパラメーターです。

可変範囲: 0ms ~ 50ms

**■ RS.DELAY (right surround delay)**  
ライト      サラウンド      デレイ

機能: 5チャンネルステレオモード時に上記チャンネルの遅延時間を調節するパラメーターです。

可変範囲: 0ms ~ 50ms

# 故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

## ■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	16
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れると保護回路により電源が切れることがある。	スピーカーの接続を確認してください。	14、15
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	16
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が“ DISPLAY OFF ”になっている。	全表示、または簡易表示にしてください。	17
	セットメニューの「9 DISPLAY SET」のBLUE BACKがOFFに設定されているときに、ビデオ信号の入力がない。	ビデオ信号が入力されていない場合には表示されません。常時表示させるには、AUTOに設定してください。	34
音や画像が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	10 - 15
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT </> キーまたは6CH INPUT キーで正しく選択をしてください。	21
	SPEAKERSスイッチ(A、B)が正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONに設定してください。	21
	ボリューム(音量)が絞られている。	ボリュームを大きくしてください。	22
	消音されている。	リモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	22
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能なソースを再生してください。	
映像が出ない。	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入力側 / 出力側ともに、同じ種類(コンポジット、Sビデオまたはコンポーネントビデオどうし)で接続してください。	12、13
音声が突然出なくなる。	ショートなどの原因により保護回路が作動している。	スピーカー配線が相互に接触していないことを確認してから、本機のスイッチをONに入れなおしてください。	14、15
	スリープタイマーが作動した。	電源をONにして、ソースを再生しなおしてください。	36
	消音されている。	リモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	22
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーコードの断線も確認してください。	10 - 15
	セットメニューの「2 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定しなおしてください。	31

症状	原因	解決方法	参照ページ
エフェクトスピーカーから音が出ない。	EFFECT OFFになっている。	EFFECTキーを押して、EFFECT ONにしてください。	26
	ドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS信号の入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	44、45
	サンプリング周波数96kHzデジタル信号が本機に入力されている。		22
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを上げます。	35
	セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定します。	29
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1～4を選択している。	別の音場プログラムを選択してください。	44、45
	ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーレベルが絞られている。	リアスピーカーのレベルを上げます。	35
	音場プログラムのNo. 9でモノラルソースを再生している。	他の音場プログラムを選択して再生します。	44、45
サブウーファーから音が出ない。	セットメニューの「1D LFE/BASS OUT」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやDTSソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	31
	セットメニューの「1D LFE/BASS OUT」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください。	31
	ソースに低音信号（90Hz以下）が含まれていない。		
低音の再生不良。	サブウーファーを使用していないのにセットメニューの「1D LFE/BASS OUT」がSWFRまたはBOTHに設定されている。	MAINに設定してください。	31
	セットメニューの各スピーカーの出力モード（メイン、センターまたはリア）がスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。	29、30
ハム音が出る。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかりと差し込みます。	10 - 13
	レコードプレーヤーのGND端子が接続されていない。	レコードプレーヤーのアースコードを本機のGND端子に接続してください。	10、11
レコードの再生音が小さい。	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生されている。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	10

症状	原因	解決方法	参照ページ
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。	接続機器の電源をONにしてください。	10
サラウンドと効果音を付加した音を録音できない。	サラウンドと効果音を付加した音は録音できません。		27
録音できない。	デジタル録音時にアナログソースを入力している。	デジタルソースを入力してください。	10 - 13
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	
	アナログ録音時にデジタルソースを入力している。	アナログソースを入力してください。	
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	
スピーカーレベルやパラメーターなどの設定値を変更できない。	セットメニューの「10 MEMORY GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください。	34
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	
本機に接続しているテープデッキまたはCDプレーヤーにヘッドホン差込んで聴いていると、音質が劣化する。	本機の電源が切れている。	本機の電源をONにしてください。	
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	

## ■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	5
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。	5
本機または接続機器がリモコンで操作できない。	操作する機器が選択されていない。	操作ダイヤルのポジションを操作したい機器に合わせてください。	37
	システムコンポーネントは操作できません。		
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおしてください。	42
		同じメーカーのメーカーコードの中から別のメーカーコードを設定してみてください。	
メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。	その機器に付属のリモコンをご使用ください。		

本機使用中に、強い外来ノイズ（落雷・過大な静電気など）を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後に電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。

# 仕様

## オーディオ部

定格出力(6、20Hz~20kHz、0.06%THD)  
メイン L/R ..... 90W+90W  
センター ..... 90W  
リア L/R ..... 90W+90W

実用最大出力(6、EIAJ、1kHz、10%THD)  
メイン L/R ..... 115W+115W  
センター ..... 115W  
リア L/R ..... 115W+115W

ダイナミックパワー(IHF、6/4/2 )  
メイン L/R ..... 120/140/170W

ダンピングファクター(8、20Hz~20kHz)  
メイン L/R ..... 80以上

周波数特性  
(CD - メイン L/R) ..... 10Hz~100kHz、-3dB

RIAA偏差  
PHONO MM ..... ±0.5dB

全高調波歪率  
PHONO MM (20Hz~20kHz、1V、REC OUT)  
..... 0.02%以下  
CD、他(8、20Hz~20kHz、メイン L/R、45W、  
EFFECT OFF) ..... 0.06%以下

S/N(IHF - Aネットワーク、入力ショート)  
PHONO MM - REC OUT、2.5mV入力 ..... 81dB  
CD、他 - メイン L/R、EFFECT OFF、  
250mV入力 ..... 100dB

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)  
メイン L/R ..... 150μV以下

チャンネルセパレーション  
(VOL. - 30dB、EFFECT OFF、1kHz/10kHz、5.1k  
ターミネート)  
CD、他 - メイン L/R ..... 60dB/45dB

トーンコントロール(メイン L/R)  
BASS ..... ±10dB/50Hz  
TREBLE ..... ±10dB/20kHz  
BASS EXTENTION ..... +6dB/60Hz

ヘッドホン出力/インピーダンス ..... 400mV/56Ω

入力感度/インピーダンス(アナログ)  
CD、他 ..... 150mV/47k  
PHONO ..... 2.5mV/47k  
6CH INPUT ..... 150mV/47k

最大許容入力  
PHONO MM (1kHz、0.1%THD) ..... 100mV以上  
CD、他(1kHz、0.5%THD) ..... 2.2V以上

出力電圧/インピーダンス(アナログ)  
REC OUT ..... 150mV/1.2k  
SUB WOOFER ..... 4.0V/1.2k

## ビデオ部

信号方式 ..... NTSC

ビデオレベル  
コンポジットビデオ ..... 1Vp-p/75  
Sビデオ

Y ..... 1Vp-p/75  
C ..... 0.286Vp-p/75

コンポーネントビデオ  
Y ..... 1Vp-p/75  
PB/CB、PR/CR ..... 0.7Vp-p/75

S/N ..... 50dB

周波数特性(MONITOR OUT)  
コンポジットビデオ、Sビデオ 5Hz~10MHz、-3dB  
コンポーネントビデオ ..... DC~30MHz、-3dB

## 総合

電源電圧 ..... AC100V、50/60Hz

消費電力 ..... 200W  
待機電力 ..... 0.8W

ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W) ..... 2

寸法(幅×高さ×奥行き) ..... 435×151×390mm

重量 ..... 10.5kg

付属品 ..... リモコン  
..... 乾電池(単4×4)  
..... リモコン操作チャート  
..... 簡易接続図

仕様、外観および記載内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

## ■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声) 会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声) 効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル記録方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。

この方式は現在、ほとんどのビデオテープ、LDの他、テレビ、ケーブル放送などにも広く普及しています。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーが、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

## ■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声をお届けするデジタルサラウンドシステムです。フロントの3チャンネル(レフト、センター、ライト)と、リアのステレオ2チャンネルがあり、それぞれフル帯域の音声成分を持っています。さらにLFE(Low Frequency Effect)と呼ばれる、他のチャンネルとは別に設けられた低音域専用のチャンネルを加え、合計5.1チャンネルとなります(LFEは0.1とカウントされる)。

ドルビーサラウンドと比較するとリアがステレオ2チャンネルで収録されているため、音の移動感や周囲の環境音がより明確に感じられます。また、フル帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)と、正確な音の定位が、かつてないような迫力とリアリズムを再現します。

本機では、モノラルから最高5.1チャンネルまで様々なソースをお楽しみいただけます。

## ■ DTS (デジタル・シアター・システムズ) デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる6チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。その厚みのある音と自然な空間表現を家庭でも楽しめるように、DTSテクノロジー社が家庭用システムを開発しました。極めて劣化の少ないクリアな音質の6チャンネル(技術的にはレフト、ライト、センター、2つのリアチャンネルに、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)です。

## ■ LFE 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、フル帯域の5チャンネルに対し、効果的な場面で低音を増強するために録音されるので、0.1とカウントされます。

## ■ シネマDSP

ドルビーサラウンド、DTSのシステムは、もともと映画館用にデザインされているため、スピーカーの数が多く、音響効果を考慮して設計された映画館で、その効果を最大限に発揮します。ご家庭では、当然ながらお部屋の広さ、壁の材質、スピーカーの数などの条件が異なるため、視聴感に差がでてしまいます。そこでヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を自在に応用し、ドルビープロロジック、ドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせ、音のスケールや奥行き、音量感をおぎない、ご家庭のリビングルームで映画館のような視聴体験を可能にします。

## ■ サイレントシアター

音場ごとにヘッドホン用のパラメーターが設定され、自然で立体感あふれる全音場プログラムをヘッドホンでも楽しめます。

自然で立体感あふれる音場効果のヘッドホンDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

## ■ パーチャルシネマDSP

リアスピーカーなしでも仮想的リアスピーカーでDSPの音場サラウンド効果を楽しめるパーチャルシネマDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

また、センタースピーカーを設置できない場合でも、最低限メインL/Rの2スピーカーシステムでパーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

## ■ Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならピンコードで伝送される映像信号を、専用のSビデオコードを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生することができます。

## ■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:P<sub>B</sub>/C<sub>B</sub>およびP<sub>R</sub>/C<sub>R</sub>信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれが独立しているため、色をより忠実に再現します。また、コンポーネント信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。

コンポーネント信号を出力するには、コンポーネント入力のあるモニターが必要です。

## ■ PCM (リニアPCM)

アナログ音声信号を圧縮せず、そのままデジタル信号化して録音・伝送する信号フォーマットです。CDやDVDオーディオの録音方法が例として挙げられます。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を使います。“PCM”は、パルス・コード・モジュレーションの略で、アナログ信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

## ■ サンプリング周波数 / 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。

再生できる周波数帯は“サンプリング周波数”で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは“量子化ビット数”で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることとなります。

## ■ I/Oアサインメント(セットメニュー)

通常、端子名に表示されている通りに機器を接続しますが、本機には接続する機器に合わせて端子を割り当てる(アサインする)機能があります。使用する機器と本機のコンポーネントビデオ入力端子やデジタル入/出力端子の機器名が異なる場合は、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。また、使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合など、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を有効に接続することができます。

# 索引

<b>ア</b>		<b>ラ、ワ</b>	
音場効果	25、47	リアパネル	8
音場プログラムパラメーター	49	リモコン	
<b>カ</b>		基本操作	4
外部デコーダー	11	使用範囲	5
<b>サ</b>		操作ダイヤル	4、37
再生	21	電池	5
サイレントシアター	26	録音 / 録画	27
サブウーファー	15	<b>A, B</b>	
サンプリング周波数	22、57	AC OUTLETS (電源供給コンセント)	16
シネマDSP	44、56	BGV (バックグラウンドビデオ) 機能	23
ステレオ再生	26	<b>C</b>	
スピーカー		CBL/SATポジション	41
スピーカーレベル (LEVELキー使用)	35	CDポジション	39
スピーカーモード (セットメニュー設定)	18、29	<b>D</b>	
スピーカーのレベル調節 (テストトーン使用)	19	DISPLAY SET (セットメニュー)	34
設置	9	BLUE BACK	34
スリープタイマー	36	DIMMER	34
<b>接続</b>		OSD SHIFT	34
オーディオ機器 (MDレコーダー / テープデッキ、		DOLBY D. SET (セットメニュー)	33
CDレコーダー、CDプレーヤー、チューナー)	10	D-RANGE	33
外部デコーダー	11	LFE LEVEL	33
スピーカー	14	音場プログラム	25、44
電源コード	16	シネマDSPプログラム	44
ビデオ機器 (DVDプレーヤー、LDプレーヤー、		Hi-Fi DSPプログラム	44
ビデオデッキ / DVR、デジタルTVチューナー)	12	DTS (デジタル・シアター・システムズ)	56
セットメニュー	18、28	DTS LFE LEVEL (セットメニュー)	33
操作ダイヤル	4、37	DVD/LDポジション	40
<b>タ</b>		DVD MENUポジション	40
タイマー再生 / 録音	27	<b>E, F, G, H, I, J, K</b>	
デジタル端子	10	HP TONE CTRL (セットメニュー)	32
ディスプレイ	7	INPUT MODE (セットメニュー)	32
ディレイタイム	34	I/O ASSIGNMENT (セットメニュー)	32
テストトーン (TEST DOLBY SUR.)	19	<b>L</b>	
電源供給コンセント	16	LEVELキー	35
ドルビーサラウンド (ドルビープロロジック)	56	LFE (LFE 0.1チャンネル)	33、56
ドルビーデジタル	56	L/R BALANCE (セットメニュー)	31
<b>ナ</b>		<b>M, N, O</b>	
入力モード	23	MEMORY GUARD (セットメニュー)	34
<b>ハ</b>		<b>P, Q, R</b>	
バーチャルシネマDSP	26、56	PCM	57
バランス	31	PHONO端子	10
ビデオ端子	12	<b>S</b>	
付属品	表紙裏	SP DELAY TIME (セットメニュー)	34
フロントパネル	2	SPEAKER SET (セットメニュー)	29
防塵キャップ	10	CENTER SP	29
<b>マ、ヤ</b>		LFE/BASS OUT	31
ミュート	22	MAIN LEVEL	31
メーカーコード	42、59	MAIN SP	30
メモリーバックアップ	27、29、35、48	REAR L/R SP	30
		<b>T, U, V, W, X, Y, Z</b>	
		TAPE/MDポジション	39
		TVポジション	41
		VCRポジション	41

# メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

<b>TV</b>		<b>ビデオデッキ</b>		<b>CD プレーヤー</b>		<b>OPTIMUS</b>	0225, 0245, 0555, 0595, 0845, 0855, 0865, 0895, 0935
AIWA	1481	HITACHI	0102, 0562, 0572, 0582, 0592, 0602, 0992	ACOUSTIC RESEARCH	1295	PANASONIC	0055, 0825, 1095, 1125
FUNAI	1341, 1361, 1411, 1451	MITSUBISHI	0452, 0462, 0542, 0762, 0952, 1082	ADC	0025, 0065	PHILIPS	0165, 0215
GENERAL	1291			ADCOM	0205, 0255, 1015	PIONEER	0305, 0935, 1045
HITACHI	1351	NEC	0122, 0202, 0292, 0422, 0432, 0542, 0632	AIWA	0295, 0945, 1035, 1055	PROTON	0215, 1185
MITSUBISHI	1381			AKAI	0175, 0485, 0535	QUASAR	0055
NEC	1321	PANASONIC	0012, 0052, 0092, 0222, 0372, 0382, 0392, 0412, 0932	AUDIO-TECHNICA	0545	RCA	0205, 0915, 1115
PANASONIC	1311, 1371, 1431			BSR	0245, 0655, 0775	REALISTIC	0205, 0225, 0235, 0325, 0555, 0845
PIONEER	1331	SANYO	0242, 0612, 0842, 0902, 0922	CALIFORNIA AUDIO LAB	0055	REVOX	1175
SAMSUNG	1461			CARVER	0285, 1135	ROTEL	0215
SANYO	1231, 1251, 1261	SHARP	0402, 0472	CROWN	0185	SAE	0215
SHARP	1241, 1271	SONY	0032, 0332, 0352, 0362, 0672, 0792, 0932	DENON	0275, 0875, 0885	SANSUI	0215, 0625, 0975, 1025, 1105
SONY	1281, 1441			EMERSON	0205, 0325, 1105	SANYO	0145, 0555, 0635, 0765
TOSHIBA	1301	TOSHIBA	0062, 0302, 0342, 0622, 0682, 0712, 0762	FISHER	0095, 0555, 0925, 1005	SCOTT	0325, 1105
VICTOR	1201, 1211, 1221			GARRARD	0365	SEARS	0345
ベスト	1321, 1341, 1361, 1411, 1451, 1461, 1471	YAMAHA	0202, 0632	GENEXXA	0305, 0325, 1105	SHARP	0235, 0665, 0895, 1065, 1075
YAMAHA	0361, 1031, 1111			HARMAN/KARDON	0105, 0175, 0465, 0995	SHERWOOD	0115, 0235, 0395, 0475
<b>ケーブルTVチューナー</b>				HITACHI	0195, 0205, 0505, 0815	SONY	0065, 0565, 0865, 1145
Pioneer	0006, 0086			KENWOOD	0045, 0095, 0405, 0585, 0725, 0735, 0745, 0755, 0895	STS	0025
<b>衛星チューナー</b>		<b>DVD プレーヤー</b>		KYOCERA	0025	TEAC	0235, 0335, 0385, 0525, 0795, 0835, 1355
対応メーカーなし		DENON	0368	LUXMAN	0075, 0425, 0675, 0705, 0715, 0985	TECHNICS	0055, 0605, 1095
		HITACHI	0388	MAGNAVOX	0165, 0215, 0645, 0955	VICTOR	0315
		KENWOOD	0288	MARANTZ	0215, 0235, 0375, 0785, 1345	WARDS	0175
		ONKYO	0128, 0248	MCINTOSH	0355, 1085	YAMAHA	0005, 0015, 0085, 0415, 0545, 0575, 1065
		PANASONIC	0048	MCS	0905, 1315		
		PHILIPS	0188, 0248	MEMOREX	0205, 0225, 0235, 0305, 0325, 1105		
		PIONEER	0208, 0228	MISSION	0215		
		SAMSUNG	0148	MITSUBISHI	0135, 0445		
		SHARP	0068	MTC	1255		
		SONY	0028	NAD	0035, 0615, 0685, 0695		
		TOSHIBA	0088, 0248	NAKAMICHI	0125, 0435, 0515		
		VICTOR	0168, 0348	NEC	0255, 0905, 0965		
		YAMAHA	0008, 0048, 0188, 0248	NIKKO	0545, 1005		
				ONKYO	0155, 0455, 0495, 0805, 1155		

---

CD レコーダー /

CD-RW

HITACHI	0474
MARANTZ	0484, 0494
PHILIPS	0444
PIONEER	0454, 0464
VICTOR	0504
YAMAHA	0414

---

MD レコーダー

KENWOOD	0384
PIONEER	0424
SHARP	0434
SONY	0394
YAMAHA	0024, 0394, 0404

---

テープデッキ

AIWA	0094, 0214, 0224
AKAI	0184
CARVER	0094
DENON	0304
FISHER	0144
GARRARD	0194, 0204
KENWOOD	0124, 0134, 0154, 0234, 0244, 0264
MAGNAVOX	0094
MARANTZ	0094, 0344
MITSUBISHI	0184
ONKYO	0364, 0374
OPTIMUS	0034, 0064, 0204, 0334
PHILIPS	0094
PIONEER	0034, 0044, 0064
REVOX	0354
SANSUI	0094, 0344
SHARP	0264
SHERWOOD	0334
SONY	0054, 0084, 0324
TEAC	0194, 0254
TECHNICS	0074, 0314
VICTOR	0274, 0284, 0294
WARDS	0034
YAMAHA	0004, 0014, 0104, 0114, 0164, 0174, 0264

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

## スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00、13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



## 永年ご使用のAV製品の点検を!

### こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズが変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

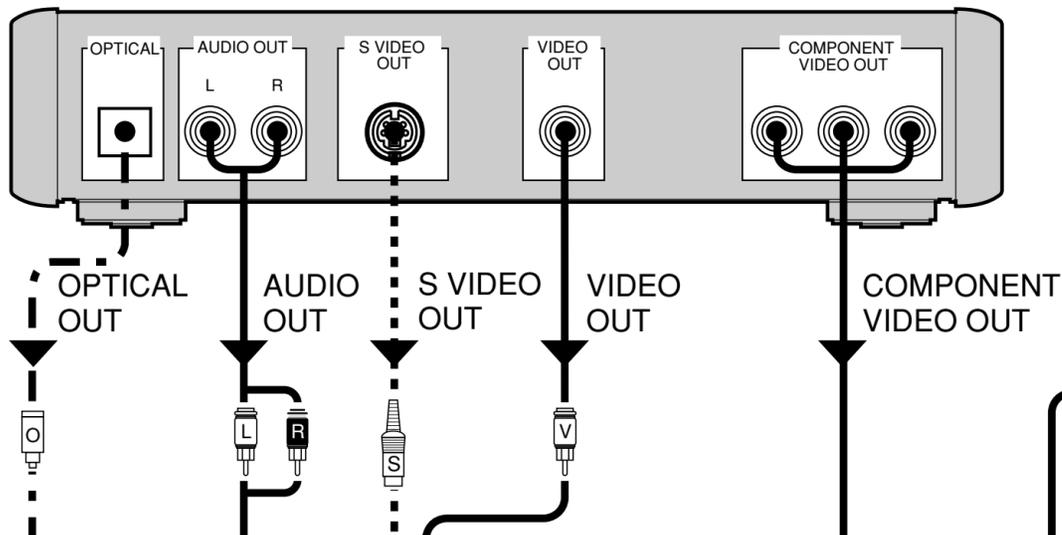
〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

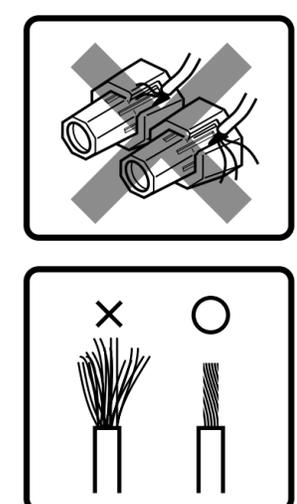
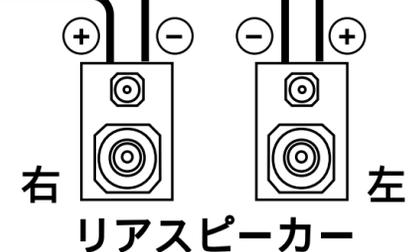
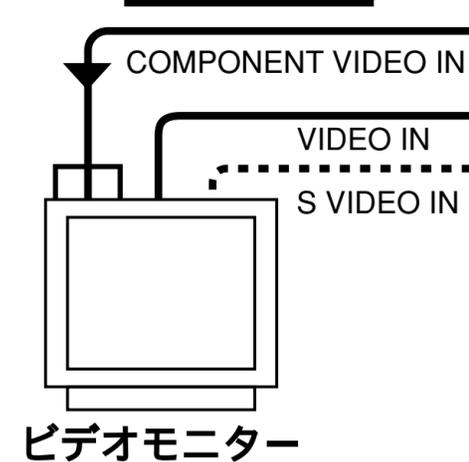
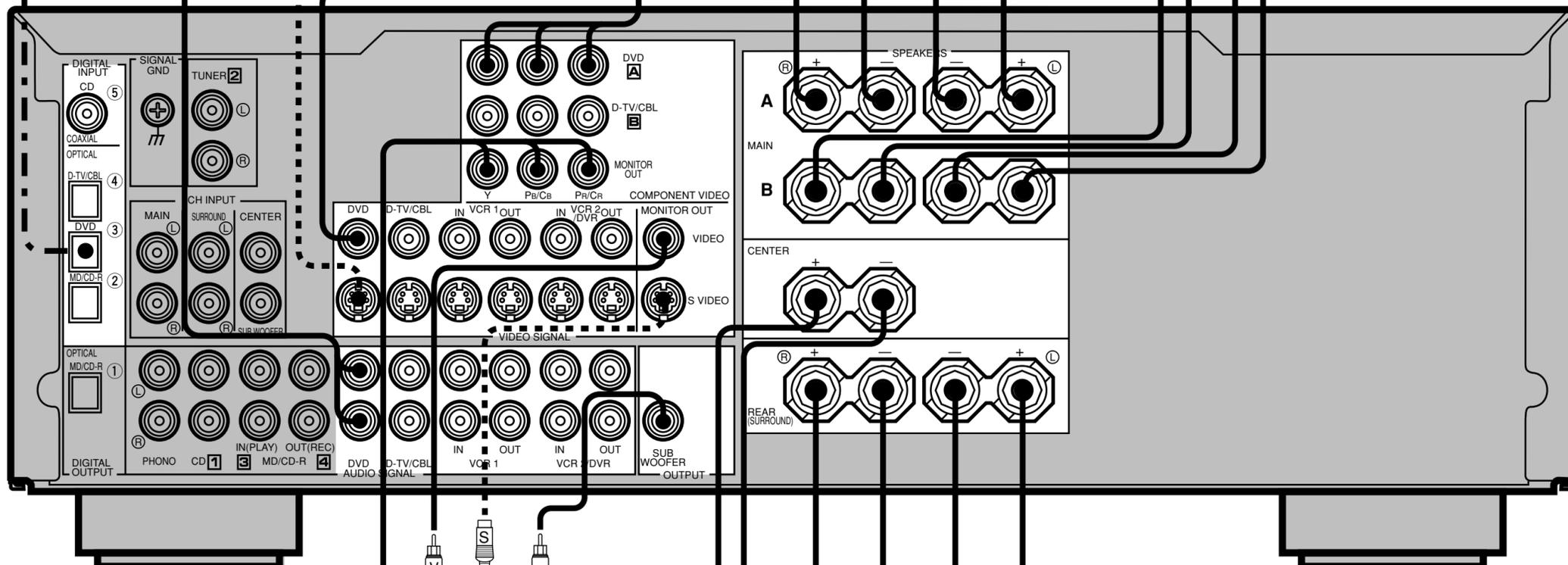
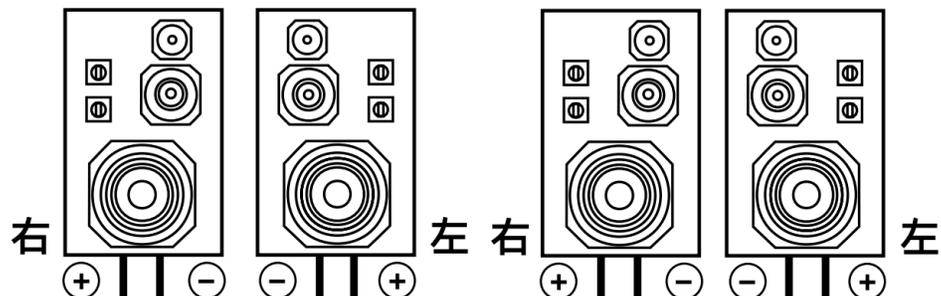
# 簡易接続図 (5.1チャンネルのデジタルソースを再生するとき)

DVDプレーヤー



メインスピーカーA

メインスピーカーB



- アナログ音声接続コード
- S映像信号接続コード
- 映像信号接続コード
- 光デジタル接続コード
- 信号の流れ

# リモコン操作チャート

本機に付属のリモコンで本機および本機以外のいくつかのヤマハAV機器を操作できます。また各メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定することにより、他社のいくつかの機器(またはヤマハのいくつかの機器)を操作することもできます。

## メモ

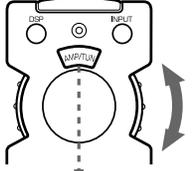
工場出荷時には各ダイヤルポジションごとにヤマハのメーカーコードが設定されています。お手持ちのヤマハAV機器を操作できないときには、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、各機器専用のリモコンをご利用ください。(取扱説明書を参照してください。お手持ちの機器の取扱説明書も合わせて参照してください。)

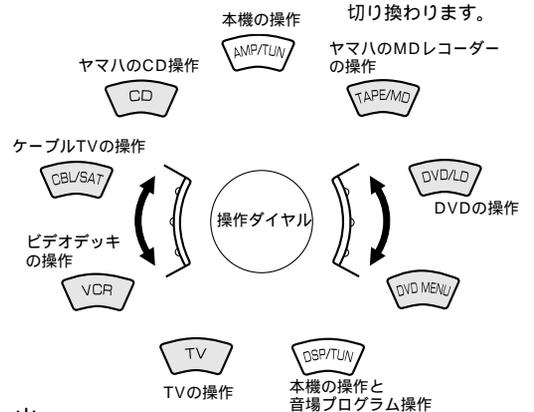
## 操作ポジションについて

本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まず操作ダイヤルで操作する機器を選んでからキーを押します。ダイヤルを回すと操作できる機器が表示されます。

ダイヤルを回す  
カチッとロックする位置まで回します。

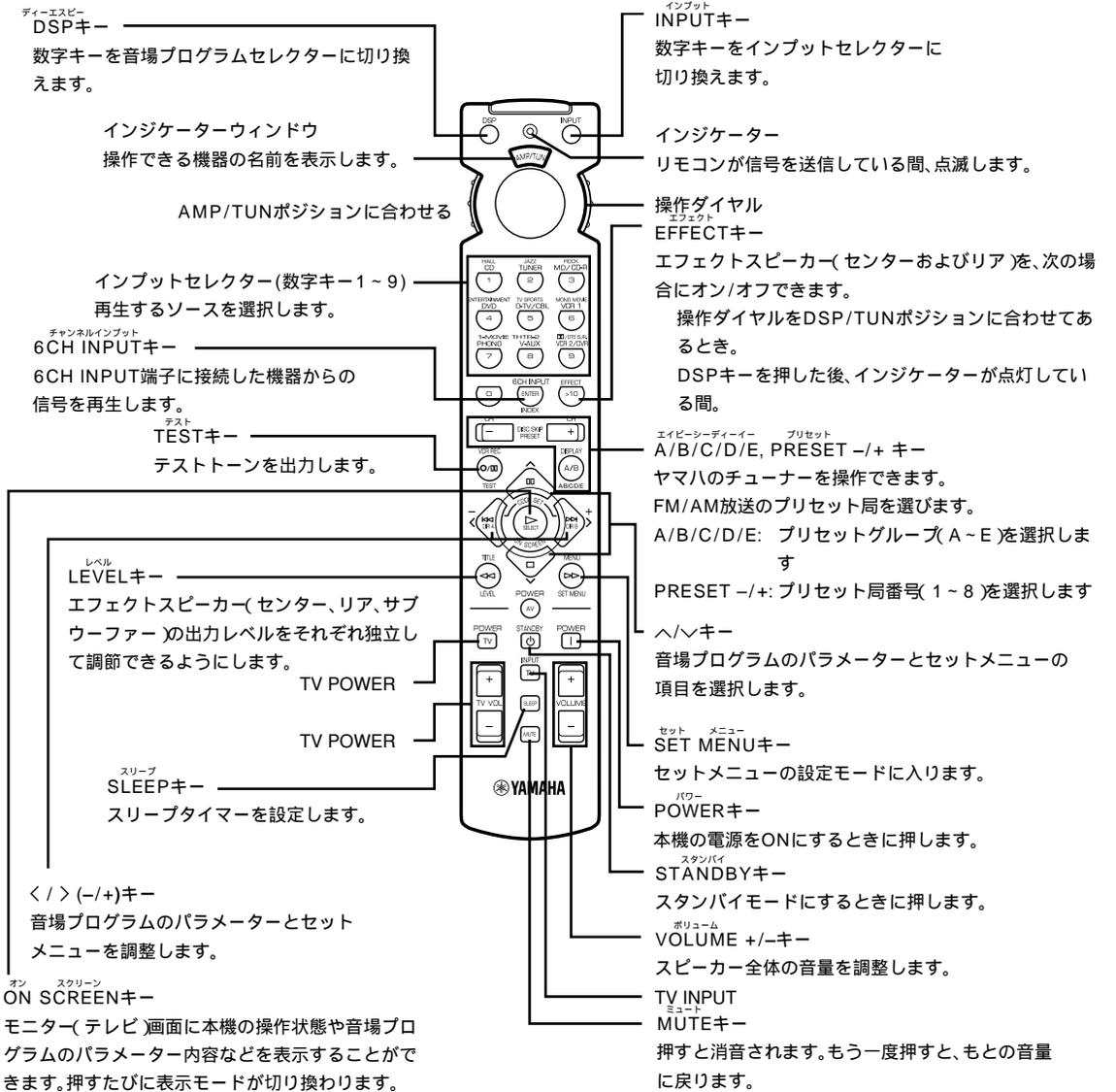


操作できる機器が切り換わります。



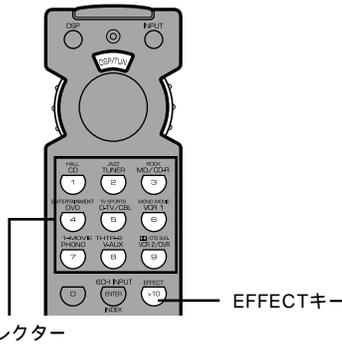
上図の□で示したポジションには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードを設定して操作することができます。

## AMP/TUNポジション



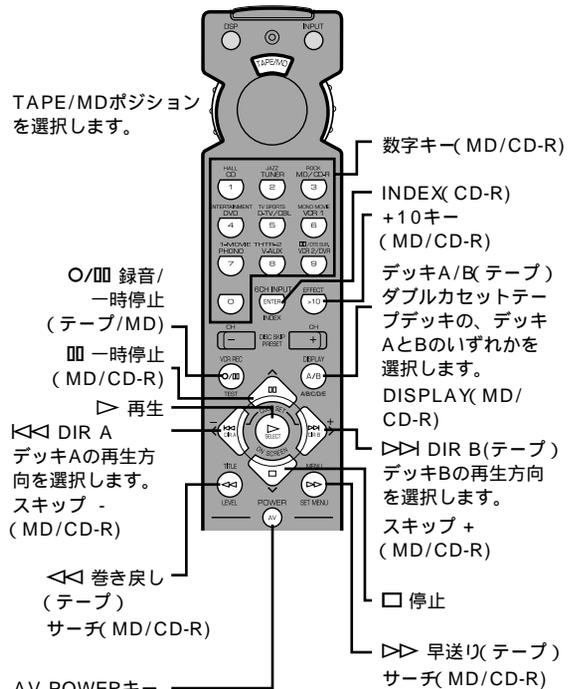
## DSP操作ポジション

DSP操作ポジションでは、インプットセクターが音場プログラムセクターに切り換わり、ダイレクトに音場プログラムが選べます。また、EFFECTキーを押してエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフできます。数字キー以外のキーはAMP/TUNポジションと同様に使えます。



## TAPE/MDポジション

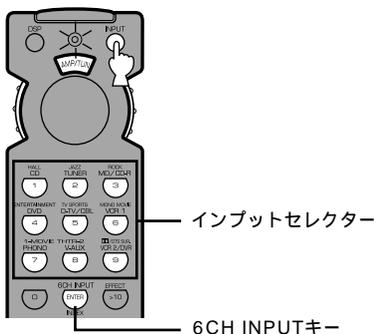
ヤマハのMDレコーダーが操作できます。テープデッキまたはCDレコーダーを操作する場合は、それぞれのメーカーコードを設定してください。



## 数字キーについて

数字キーは、操作ダイヤルのポジションまたは他の操作の組み合わせに応じて、さまざまな機能を持ちます。

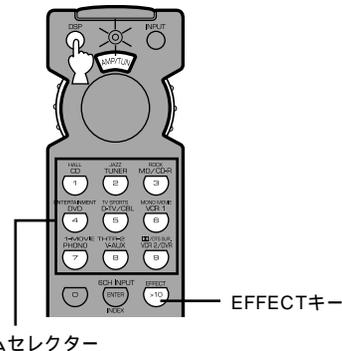
### ■ 再生するソースを選択するとき



1 操作ダイヤルのポジションに関係なくINPUTキーを押します。  
インジケーターが約3秒間点灯します。

2 インジケーターが点灯している間、数字キーおよび6CH INPUTキーで再生するソースを選択できます。

### ■ 音場プログラムを選択するとき、およびエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフするとき



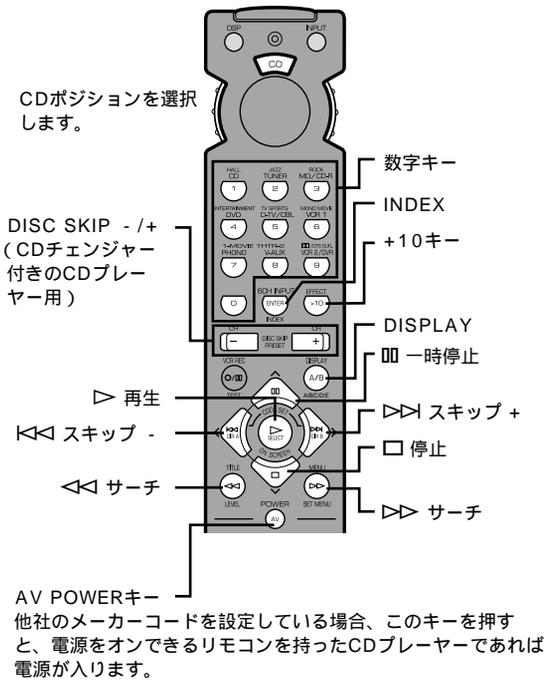
1 操作ダイヤルのポジションに関係なく、DSPキーを押します。  
インジケーターが約3秒間点灯します。

2 インジケーターが点灯している間、数字キーで音場プログラムを選択できます。また、EFFECTキーを押してエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフできます。

# リモコン操作チャート

## CDポジション

ヤマハのCDプレーヤーが操作できます。

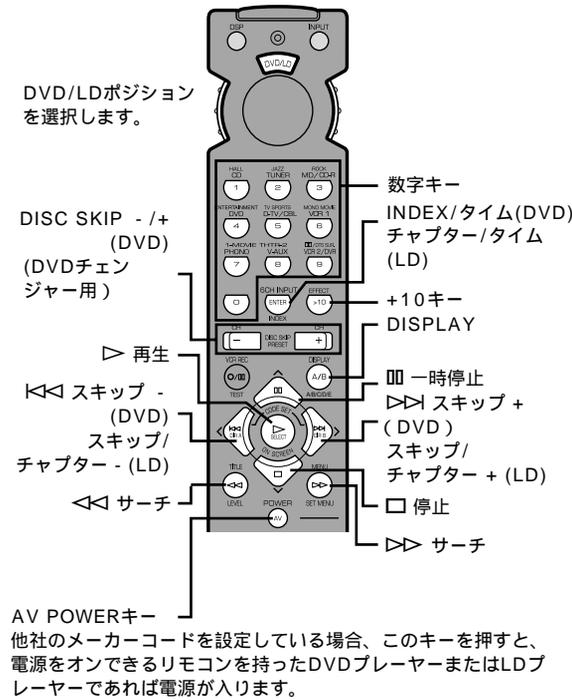


### ☀️ 一時停止と□キーについて

工場出荷時の設定では、一時停止または□キーを一度押すと、一時停止となります。もう一度押すと停止となります。

## DVD/LDポジション

DVDプレーヤーが操作できます。(DVDメニューを操作するときは、DVD MENUポジションに切り換えます。)  
LDプレーヤーを操作する場合は、LDプレーヤーのメーカーコードをこのポジションに設定してください。

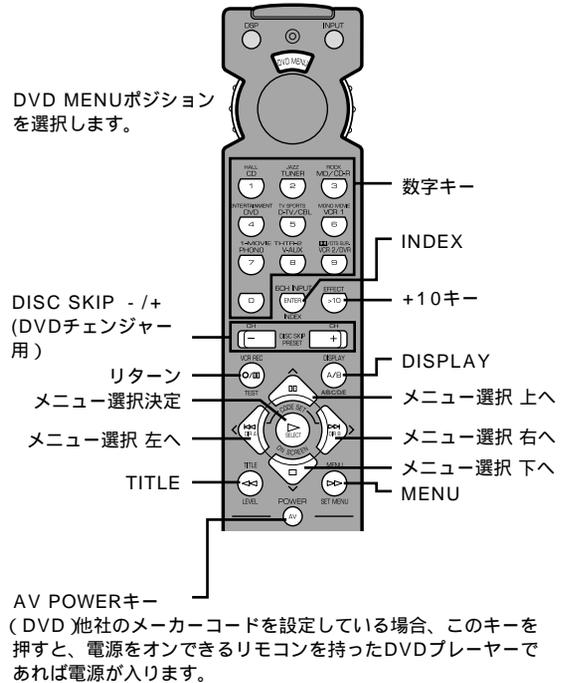


## DVD MENUポジション

DVDメニューが操作できます。

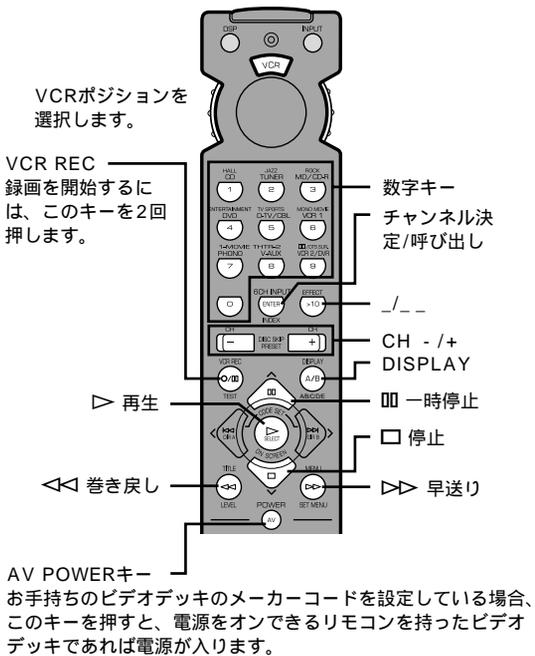
### ご注意

DVDプレーヤーによっては、DVDメニューの操作ができないものもあります。



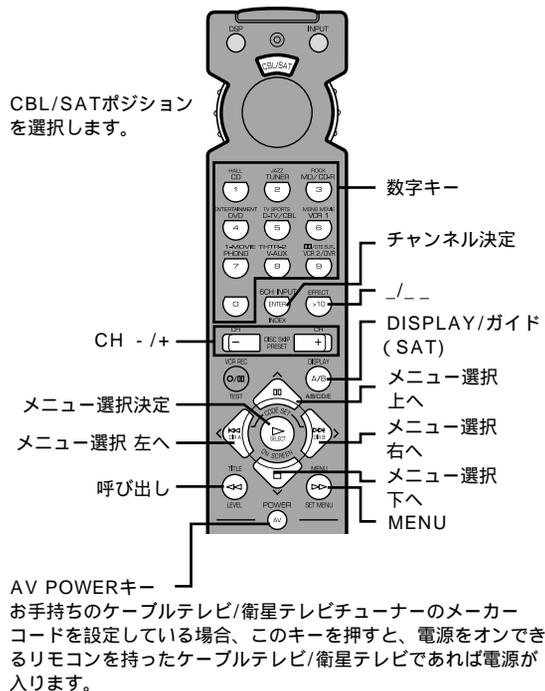
## VCRポジション

ビデオデッキのメーカーコードを設定した後に操作できます。



## CBL/SATポジション

ケーブルテレビ/衛星テレビチューナーのメーカーコードを設定した後に操作できます。



## TVポジション

テレビのメーカーコードを設定した後に操作できます。

### ご注意

VCRポジションにビデオデッキのメーカーコードを設定している場合、このポジションでビデオデッキを操作できます。

